

- 5100 **蠡**(れい・石井い、藩士服部正之男) 1738-1812⁷⁵ 石井高富の養嗣子、上州館林藩士、儒; 大内熊耳・安達清河門、国史・兵学に通ず、藩主松平武元の右筆/侍読、藩校教授を兼任、頼春水・岡田寒泉と交流、「東都歳事記」「続三王外記」著、「松平家記録」編、[蠡(;名)の字/通称/号]字; 子彭、通称; 条太夫、東武野史、号; 揚州/若無子
- B5156 **烈以**(れい・中村なかむら、柳川藩士鎌田元季長女) 1774-1819⁴⁶ 大坂藩邸の生、歌人、和泉堺奉行所の与力中村東為の後妻
- 蠡(れい・日吉) → 湯島(とうとう・日吉ひよし、儒者) G 3 1 7 4
 蠡(れい・斎藤) → 南溟(なんめい・斎藤さいとう、儒者) 3 2 3 8
 蠡(れい・諸葛) → 琴台(きんだい・諸葛もろくず、儒者/度量学) I 1 6 1 3
 礼(れい・岸) → 岸礼(がくれい、絵師) R 1 5 8 6
 礼(れい・山本) → 玉岡(ぎよくこう・山本やまもと、儒者) I 1 6 8 4
 礼(れい・和田) → 春庵(しゅんあん・和田わだ、本草家) 2 1 9 3
 礼(れい・奥宮) → 暁峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/書家) I 1 6 8 2
 礼(れい・安川) → 柳溪(りゅうけい・安川やすかわ、儒/詩人) D 4 9 5 9
 礼(れい・佐々木/渡辺) → 方壺(ほうこ・佐々木ささき/渡辺、儒者) F 3 9 1 5
 黎(れい・村瀬) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3
 黎(れい・三宅) → 沃地(よくち・三宅みやけ/清原、儒者) B 4 7 7 4
 齡(れい) → 齡(よわい、俳人) K 4 7 2 2
 齡(れい・南宮) → 藍川(らんせん・南宮なんぐう、儒者) C 4 8 8 4
 麗(れい・荒木田) → 麗女(れいじょ・荒木田、歌/歴史物語) 5 1 0 2
 嶺(れい:名) → 尊朝親王(そんちょうしんのう、青蓮院門跡/書家) 2 5 3 3
 礼阿(れいあ;法名) → 然空(ねんくう;法諱、浄土僧) 3 4 6 2
 藜庵(れいあん) → 青岐(せいき・上野、俳人) 2 4 9 5
 令為(れいゐ・椿居) → 令為(のりため・椿居つばき/平、藩士/歌) J 3 5 2 4
 荔帷(れいゐ・堀田) → 茂之(しげゆき・堀田ほった、神職/歌人) D 2 1 2 9
- B5154 **礼一**(れいち・柴田しばた、花守はまもり長男) 1841-1920⁸⁰ 肥前小城の神道家; 父の実行教官長を継嗣、シカゴ万国宗教会議に出席、[礼一(;名)の号] 衆香
- 孿乙子(れいいつし:変名) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9
 令尹(れいいん・北村) → 令尹(よしただ・北村きたむら、国学/歌人) M 4 7 4 9
 靈隱(れいいん) → 曙覽(あけみ・橘/正玄、商人/国学/歌) 1 0 1 4
- 5111 **靈雨**(れいう・伊形いがた) 1745 - 1787⁴³ 肥後玉名郡木葉村の農業、学問を好む、熊本藩校時習館に修学/京に遊学; 国学・歌・故実を滋野井公麗(きんかざ)門、儒詩; 秋山玉山・藪孤山門、藩校時習館助教に登用; 熊本藩儒、「靈雨山人詩集」著、「民草婦利」編、[靈雨(;号)の名/字/通称/別号]名; 質すなお、字; 大素/太素、通称; 莊助、別号; 猿崖居士
- 藜雨(れいう) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3
 零雨山房主人(れいうさんぼうしゅじん) → 令輔(れいすけ・榊さかき、幕臣/洋学者) 5 1 4 4
- 5112 **靈雲**(れいうん/りょううん) ? - ? 江前期説話伝承者; 「奇異雑談(きいうたん)集」入
- 5113 **靈雲**(れいうん;法諱、法名;吟蓮社竜誉) ?-? 武蔵滝山の浄土宗大善寺17世住職、上野太田の大光院27世、1720(享保5)「義重山開祖呑竜上人伝」、「義重山風土聞見録」著
- 靈雲(れいうん;法諱) → 靈雲(りょううん;法諱、時宗僧/歌人) M 4 9 4 6
 嶺雲(れいうん;法諱) → 兎夕(とせき、禅僧/俳人) O 3 1 2 8
 嶺雲(れいうん・松下) → 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9
 冷雲積果(れいうんしやくか) → 積果(しやくか・冷雲、詩人) G 2 1 4 6
 礼右衛門(れいゑもん・楠原) → 正道(まさみち・楠原くすはら、国学/歌人) P 4 0 3 9

- 礼焉(れいえん) → 元成(げんせい・向井魯町ちよう、儒/医/俳人) E 1 8 2 7
 霊淵(れいえん・山名) → 政胤(まさたね・山名やまな、国学者) T 4 0 5 1
 黎園(れいえん・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
 荔園(れいえん・行徳) → 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者) Y 2 1 2 9
 5114 霊応(れいおう;法諱) ? - 1777 近江君ヶ畑の浄土僧:近江金竜寺に出家、
 江戸伝通院如空門;1722五重の相伝を受/芝増上寺了般門;1741宗脈を受、増上寺学頭、
 武蔵岩槻の浄国寺・常陸瓜連の常福寺・江戸伝通院に住、1773(安永2)増上寺49世/大僧正、
 幕府に対し一向宗を浄土真宗と称することの停止を訴える、「真宗答客難薰聞記」著、
 [霊応(;法諱)の法名/号]法名;安蓮社豊誉民阿、号;蒙光触
 B5155 鈴応(れいおう;法諱・俗姓;武川たけがわ、) 1859-1906 48 信濃飯田阿智村駒場の浄土宗浄久寺住職、
 俳人;1889(明治2)俳句結社[信南真まこと連]を主宰/1893芭蕉2百回忌[梅が香]句碑建立、
 安静梅好(砂払阿弥陀寺15代住職/書家:[梅が香]句碑揮毫)の弟、
 [鈴応(;法諱)の号]有無香/楽蓮社/蓮の家/分陀利/徳風道人
 霊翁(霊眈/霊応れいおう:字) → 正慶(しょうきょう;法諱、真宗大谷派学僧) I 2 2 0 3
 藜翁(れいおう) → 入楚(にっそ・鈴木、神風館8世、俳人) E 3 3 8 3
 蛉翁(れいおう・白田) → 秋良(安岐良あきよし・白田うすだ、国学者) E 1 0 1 1
 令翁(れいおう・泉いづみ) → 舍暉(いえてる・泉/荒木田、神職/詩歌) E 1 1 8 7
 霊応院(れいおういん;法号) → 利意(としもと・土井い、藩主) N 3 1 9 3
 5115 霊屋(れいおく;道号・恵禅えぜん;法諱) ?-? 江期曹洞僧:心靈恵宗門/法嗣、
 伊予宇和郡下大野村の大泉寺を開山、「南海雑録」著
 鈴賀(れいが) → 白嶺(はくれい、俳人)
 5116 蠡海(れいかい) ? - ? 京の俳人;信徳門、1691只丸「俳諧小松原」入、
 1691江水「元禄百人一句目録」入
 麗海(れいかい・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9
 霊海(れいかい・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
 霊槐(れいかい・田丸) → 直暢(なおぶ・田丸たまる、本草家) C 3 2 0 3
 霊岳(れいがく;道号) → 宗古(そうこ;法諱・霊岳、臨濟僧/歌人) K 2 5 9 8
 霊関(れいかん;初法諱) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8
 礼幹(れいかん→のりもと・青地) → 浚新斎(しゅんしんさい・青地、儒/文筆) K 2 1 0 0
 5117 霊巖(れいがん;法諱、今川氏勝3男) 1554-1641 88 駿河沼津の浄土僧;1564(11歳)沼津浄雲寺増誉門、
 出家;肇叡と称す、下総大巖寺の貞把門;霊巖と改名、貞把没後;虎角門;戒脈を受、
 虎角の跡を継嗣;大巖寺住職、のち江戸深川に霊巖寺を創建、1629台命で知恩院32世、
 1633知恩院火災に遭う;將軍家光の援助により山内の堂塔を再建、「精義集」「伝法指南」著、
 [霊巖(;法諱)の初法諱/法名]初法諱;肇叡ちようい、法名;檀蓮社雄誉松風
 霊巖(れいがん・安田) → 放庵(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人) 3 9 1 2
 霊感院(れいかんいん) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6
 礼幾(れいき・後藤) → 礼幾(れいき・後藤ごとう/原、歌人) B 5 1 5 1
 B5149 令儀(れいぎ・内野うち) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [待ちくれて心にかかるくまもなし月のかつらも霜がえのころ](大江戸倭歌;冬1168)
 令儀(;名);ただよし?・なりよし?・のりよし?・はるよし?
 霊亀亭(れいきてい) → 定政(さだまさ・北浦、藩士/陵墓測量) J 2 0 7 3
 黎祁道人(れいきどうじん) → 観鷺(かみが・永田ながた、儒者/書家) D 1 5 5 0
 曇牛軒(れいぎゅうけん) → 盛矩(もりのり・神戸かんべ、藩士/刀劍鍛法) G 4 4 2 6
 礼郷(れいきょう・橋本) → 安居(やすい・橋本はしもと、神職/国学者) 4 5 9 4
 霊玉(れいぎよく;字) → 良巖(りょうごん;法諱・霊玉、天台学僧) H 4 9 5 4
 麗玉(れいきよく・細合) → 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) O 3 1 5 8
 麗琴(れいきん・末田) → 道麿(みちまる・末田すえだ、書肆/国学者) C 4 1 6 2
 嶺琴舎(れいきんしゃ;画号) → 富士郎(初世とみじゅうろう・中村、歌伎役者) 3 1 5 8
 霊空(れいくう;字) → 光謙(こうけん;法諱、天台僧/教観中興) I 1 9 5 6
 霊空(れいくう;字) → 是湛(ぜたん;法諱・霊空、浄土西山派僧) E 2 4 0 0

- 靈窟(れいくつ・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
 5118 令敬(れいけい・村上むらかみ) ? - ? 江前期京の俳人:令徳門、
 1662(寛文2)「誹諧旅枕」編、
 [令敬(;号)の名/別号]名;正孝、別号;自謙子
 礼卿(れいけい・菅波/菅) → 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0
 礼卿(れいけい・村上) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9
 礼卿(れいけい・広瀬) → 元恭(げんきょう・広瀬ひろせ、蘭医) I 1 8 6 0
 礼卿(れいけい・最里) → 公濟(こうさい・最里さいり、医者) I 1 9 9 0
 礼卿(れいけい・桜井) → 嵩鶴(すうかく・桜井さくらい、絵師) F 2 3 2 2
 麗景(れいけい・五十嵐) → 麗景(はるかげ・五十嵐いがらし、国学/地誌) J 3 6 6 1
 靈溪(れいけい;号) → 慶遇(きょうぐう;法諱・眞弁、眞宗僧) N 1 6 6 0
 麗景殿前女御(れいけいでんのさきのによご) → 延子(えん・藤原、後朱雀天皇妃/歌人) C 1 3 1 6
 麗景殿尚侍(れいけいでんのしょうじ) → 綏子(すい・藤原、三条院尚侍) 2 3 3 5
 麗景殿女御(れいけいでんのによご) → 荘子女王(そうしによおう、村上天皇妃) B 2 5 7 5
 5119 麗景殿宮君(れいけいでんのみやのみき、藤原兼家女?) ?-? 平安中期女房歌人、
 村上天皇女御の荘子女王(麗景殿女御)に出仕の女房か?、拾遺集542、
 [なき人の形見と思ふにあやしきはゑ見ても袖の濡るゝなりけり](拾遺;雑542、
 亡き親王の描いた絵を見ると涙で濡れる、
 宇多天皇寵愛の伊勢の産んだ親王が夭折/親王の描いた絵が村上天皇皇后安子に渡る、
 その絵を借覧した麗景殿女御荘子女王が安子の藤壺に返却する際に添える歌)
 靈見(れいけん;法諱) → 性海(しょうかい;道号、臨濟僧) Q 2 2 9 4
 5101 靈彦(れいげん;法諱・希世きせい;道号、細川満元の猶子) 1403-8886 臨濟宗南禪寺僧;斯文正宣門;
 1419(17歳)出家、のち惟肖得巖・江西竜派門、斯文正宣に嗣法、詩文に長ず、
 細川一族の庇護を受;学芸の専念/一生官寺の住持なし;席次は五山禪僧の最上位、
 1447(文安4)南禪寺聴松院を開創、五山文学詩文、1467応仁乱後丹波に住、
 1483上京し聴松院を復興;同院に没、1489禪師号を勅諡される、
 「村菴稿(そんなんこう)」「村菴集」「村菴散文」「村菴文柄」「希世薫」「金玉和襟」「三体詩絶句抄」著、
 「聴松和尚三体詩之抄」「文明易然集」「蒲芽」著、1473「梅陽琴叔百絶」評、
 [希世靈彦の号]号;村庵/東村、諡号;慧鑑明照禪師
 5122 靈玄(れいげん;法諱、羽後田沢城主田沢孫左衛門尉男) 1619-9880 1627(9歳)大和靈岸院に出家、
 浄土僧:常陸常福寺の台山門、1674武蔵滝山大善寺住/75下総飯沼弘経寺住、
 1682(天和2)芝増上寺30世、1682江戸三田大松寺に退隱、1687伊勢山田の清雲院に閑居、
 「甲陽軍記」「將軍年譜」「宗脈口訣」「糺鈔序集註」「扶桑鐘銘集」、1693「浄業図記」著外多数、
 [靈玄(;法諱)の法名] 信蓮社生誉一到
 5123 靈源(れいげん;道号・素皎そこう;法諱、号;鶴髪児、俗姓;府中) 1699-176365 備後三次の曹洞僧;
 1706(8歳)出家;備後玉泉寺の朴林淳公門、07備中西来寺の提山元綱門;得度/修学;嗣法、
 1736備後千手寺住職、1759(宝暦9)備中哲多郡井村に金聚院を開創;初祖、
 「靈源皎禪師語録」著
 5124 靈源(れいげん;道号・慧桃えとう;法諱、俗姓;小島) 1721-8565 丹後周枳の臨濟僧:1729(9歳)出家;
 丹後全性寺光嶽門、諸師参禪後に白隠慧鶴門;印可を受、全性寺住持;中興、
 鎌倉円覚寺・京臨川寺・鹿王院に歴住、1778要行院を開創、
 「靈源和尚法語雜集」著(没後1791刊)/「靈源和尚遺録」(1795刊)
 靈源(れいげん;号) → 孝巖(こうがん;道号・父戒;法諱、臨濟僧) I 1 9 0 9
 靈彦(れいげん・法華寺) → 桜男法師(あおほうし) D 1 0 2 4
 礼彦(れいげん→いやひこ) → 節斎(せつさい・富田、国学者) L 2 4 0 3
 礼巖(れいげん・与謝野) → 禮巖(れいごん;法諱・与謝野よさの/細見、眞宗僧) B 5 1 5 9
 嶺巖(れいげん) → 高国(こうこく;道号・英俊;法諱、曹洞僧) I 1 9 7 6
 靈源院(れいげんいん) → 綱政(つなまさ・黒田/松平、藩主/連歌) B 2 9 2 9
 5103 靈元天皇(れいげんてんのう、識仁さとひと、後水尾天皇皇子) 1654-173279 母;園基音女国子(新広義門院)、
 後光明天皇・後西天皇の弟、東山天皇父、1658親王宣下/62元服/63即位/87東山天皇に讓位、

1713落飾、廃絶していた大嘗祭・立太子式を復活、関白近衛基熙と対立・幕府とも緊張関係、父を追慕；修学院離宮に屢々御行、父より源氏物語講義/歌：1683後西院より古今伝授を受、自身も詠歌大概・百人一首・古今集等を講義、1730-31廷臣と千首和歌興行（御製50首）、御集「桃蘂集（靈元院御集）」、「伊勢物語巖訓抄」「乙夜随筆」「花月御製」「靈元天皇御記」、「仙洞御百首」「名所御百首」「靈元天皇御製和歌」、1732「雪のあした和歌」外著作多数、[袖の香を家づとのせむ道のべの垣根の梅は折るべくもなし]（靈元御集；7梅/住吉法楽）、[靈元天皇の幼称/法名/追号]幼称；高貴宮、法名；素浄、追号；靈元院

靈眼弘明禪師（れいげんこうみょうぜんじ）→ 願鑑（こかん；道号・古范；法諱、臨濟僧）L 1 9 9 8

麗子（れいこ・荒木田）→ 麗女（れいじよ・荒木田、歌/歴史物語作者）5 1 0 2

5125 冷五（れいご） ? - ? 京の俳人；

1774美角「ゑぼし桶」1句/77江涯「仮日記」1句入、

[いたく寒き夜半よはは嵐もなかりけり]（ゑぼし桶；49/嵐は止んだが寒さが増した夜）

5126 令侯（れいこう） ? - ? 京の俳人；貞門系、1707撰集「花吸鳥はなすいどり」編

5127 礼耕（れいこう・佐善ざぜん、医者佐善松林男）1694-1771 78 鳥取の儒者；江戸の伯父雪溪門、帰郷；1733（享保18）鳥取藩儒、実子早世で西谷元齡を養嗣子；代々藩校尚徳館学職に就く、「池水記」、1733「夜据物語」著、

[礼耕（；号）の幼名/名/通称]幼名；万吉郎、名；元雅、通称；源三郎/新三郎/新平/半左衛門

B5136 礼行（れいこう・本郷ほんごう） ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[いつしかと浅茅いろづく露の間に霜の花ふむ野となりけり]、

（大江戸倭歌；冬1129/野径霜）

靈哮（れいこう；号）→ 仏狷（ぶつげい；法諱、天台僧/教育）D 3 8 3 0

靈光院（れいこういん）→ 忠恕（ただゆき・戸田とだ、藩主）R 2 6 2 0

靈光院（れいこういん）→ 義苗（よしなね・土方ひじかた/木下、藩主/財政再建）O 4 7 7 3

靈江齋（れいこうさい）→ 呑水（どんすい；号・日陽；法諱、日蓮僧）S 3 1 3 4

靈光仏眼禪師（れいこうぶつがんぜんじ）→ 鉄山（てつざん；道号・宗鈍；法諱、臨濟僧）C 3 0 3 4

靈光不昧禪師（れいこうふまいぜんじ）→ 不昧（ふまい；道号・紹省、臨濟僧）H 3 8 4 9

麗国（れいこく・谷）→ 麗国（よしくに・谷たに/小林、国学者）P 4 7 7 9

B5159 禮巖（れいがん；法諱・与謝野よさの、細見儀右衛門2男）1823-98 76 丹後与謝郡温江村の生、

国学・歌人；八木静修しげさね（立礼）門、勤王活動家、維新後；各種事業に関与、のち出家；真宗本願寺派僧、僧侶になって[与謝野]を名乗る、京の願成寺住職、大田垣蓮月と交流、妻；初枝（京の商家の生）、与謝野鉄幹（1873-1935）の父、[礼巖の通称/初名/号]通称；長蔵、初法諱；尚綱、号；尚歌堂

靈魂学士（れいこんがくし）→ 昭規（あきのり・飛田ひだ、神職/国学）I 1 0 3 1

令茶（れいさ・山李坊）→ 青蘿（せいら・松岡、俳人）2 4 1 4

5128 荔齋（れいさい・熊谷くまがい、名：立閑、活水男）?-1695 京の儒者；尾張藩儒；病で致仕；洛南に住、

経史を講ず、詩・聯句に長ず/歌・俳諧を嗜む、1682朝鮮通信使と唱和、交遊は広い；

北村季吟・山本春正・山本通春・香川宣阿・智積院の運徹・黄檗僧南源と交流、

1675「三体詩備考大成」編/78「鼈頭太極図説」編/78「荔齋吟余」「勢陽遊紀」著、

1683「和漢唱酬集」入、「尾陽遊紀」「聚分韻略」「荔齋詩文集」著、

[荔齋（；号）の字/別号]字；荔墩（れいとん、別号；了庵/荔墩散人/新蕉軒

5129 礼齋（れいさい・木村きむら、名；謙）1752-1811 60 常陸天下野村の医者；谷田部東壑門、

上京し医学；吉益東洞門、水戸で儒；立原翠軒門；経史を修学/医；原南陽門、詩人、

翠軒の推挙で水戸藩の内命を受け；1793武石民蔵と蝦夷探検、

1798近藤重蔵に随い変名[下野源助]で蝦夷・国後/択捉を踏査、その功で御目見格、

1802酒狂により謹慎/赦免；以後著作に専念、1782「名山秘蔵」88「磴かん詩集」90「足民論」、

1791「強勉代紳録」92「磴道記」93「北行日録」99「蝦夷小話」「蝦夷日記」/1805「醉古随筆」、

1806「妖狐雑話」08「海防再議」10「采風篇」11「醉古漫筆」、「醉古詩集」「醉古堂夜話」外著多、

[礼齋（；号）の字/通称/別号/変名]字；子虚、通称；謙次、別号；醉古/醉古堂/愚鈍

変名；下野源助

- 麗齋(れいさい) → 梅員(うめかず・春道、宮崎氏、狂歌) D 1 2 3 6
 麗齋(れいさい・麻生) → 曙山(しよざん、麻生あそ、絵師) M 2 2 3 6
 令齋(れいさい・今枝) → 栄濟(えいさい・今枝いまだ、本草家) C 1 3 7 6
 令哉(れいさい・柴田) → 是真(ぜじん・柴田しばた、絵師/漆芸家) D 2 4 9 9
 鈴齋(れいさい・柳川) → 重信(じゆんしげのぶ・柳川/鈴木、絵師) C 2 1 7 4
 礼才(れいさい;法諱) → 愚極(ぐきよく;道号・礼才、臨濟僧) C 1 7 3 3
 蠡齋(れいさい・昌谷) → 千里(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者) G 2 4 8 0
 靈三(れいさん;法諱・玄圃) → 玄圃(げんぼ;道号・靈三、臨濟僧/聯句) M 1 8 2 3
 礼三(れいさん・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
- 5130 **麗山**(れいざん・田中たなか/本姓;源)?-? 江中期大阪の漢学者、1712「三才辨義」著、
 1719「三才或問」、「疑王学」「宋学辨義」「日知新録」著、
 [麗山(;号)の名/字/通称]名;允沢、字;景教、通称;寛庵
- 5131 **礪山**(れいざん・寺田てらだ、寺田屋源助2男)1804-6259 越中福野の俳人;越中福光の寺崎破笠門、
 のち梅室門、1834梅室に随行し北陸から上京;二条家より[椎の下宗匠]の称を許可、
 円満宮より[観月僧都]の号を受、1837(天保8)近江義仲寺無名庵むみょうあん12世、
 1839義仲寺無名庵に梅室を招き芭蕉150回遠忌の追善俳諧を興行、56義仲寺翁堂焼失、
 その再建のため各地を行脚中;1862(文久2)8月2日伊予宇和島に客死、
 1839芭蕉150回遠忌「追福集初編」編/1850丈草150忌「竜か岡」編/1855「なこや風流」編、
 「根笹集」著、
 [礪山(;初号)の通称/別号/法名]通称;篤三、後号;帆道/銀海堂/椿杖齋、法名;観月
 令山(れいさん/りょうざん;法諱) → 峻翁(しゆんおう;道号・令山、臨濟僧) L 2 1 7 1
 鈴山(れいざん・山中) → 天水(てんすい・山中、儒者/詩文) D 3 0 9 3
 鈴山(れいざん・佐々木) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学者/歌人) G 3 7 4 2
 靈山(れいざん;号) → 定長(さだなが・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 0 1 6
 靈山(れいざん;道号) → 靈山(りんざん;道号・道隱;法諱、渡来臨濟僧) K 4 9 3 5
 靈山(れいざん;号) → 功存(こうぞん;法諱、真宗僧/三業帰命論) K 1 9 4 5
 靈山(れいざん;法諱) → 靈山(りょうざん;・懷誉、浄土僧) H 4 9 7 2
 靈山僧正(れいざんそうじょう) → 実巖(じつがん;法諱、天台大僧正) E 2 1 8 7
 麗山亭(れいざんてい) → 宝水(ほうすい・鈴木、薬種商/俳人) B 3 9 9 3
 鈴山堂(れいざんどう) → 賈友(こゆう・鈴山堂、俳人) D 1 9 9 7
 靈山坊(れいざんぼう → りょうざんぼう) → 公誉(こうよ;法諱、天台僧) B 1 9 9 9
- 5132 **麗子**(れいし/よしこ・源みなもと/藤原、源師房女)?-1114 母;藤原道長女の尊子/藤原信家の養女、
 平安中期歌人、関白藤原師実の室;1051結婚、実兄源頭房女賢子を養女とす、
 賢子が東宮(白河天皇)の許に入、1080従一位/師実没後;1102出家;法名覚妙、
 源氏物語の伝来に關与、歌;新勅撰1199、
 [はかもなき鳥のあととは思ふともわがすゑずゑはあはれとを見よ]、
 (新勅;雑1199/詞書;源氏の物語を書きて奥に書き付けられて侍りける)、
 [麗子(;名)の通称/法名]通称;京極北政所/京極殿、法名;覚妙
- 礼之(れい・何) → 礼之(のりゆき・何[か]、洋学者) G 3 5 1 7
 礼之(れい・池田) → 玄齋(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人) J 1 8 0 5
 齡子(れい・柏原) → 齡子(としこ・柏原かじわばら/三井、正寿尼/歌人) U 3 1 7 3
 礼治(れいじ・武藤) → 知足齋(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7
 礼司(れいじ・渡辺) → 方壺(ほうこ・佐々木ささき/渡辺、儒者) F 3 9 1 5
 靈芝庵(れいしあん) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5
 靈著軒(れいしけん) → 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、書肆) F 1 5 6 7
 靈芝主人(れいししゆじん) → 基長(もとなが・小笠原、藩士/記録) D 4 4 5 3
- 5133 **礼子内親王**(れいしないしんのう、文徳天皇皇女)?-899 母;藤原今子
- 5134 **令子内親王**(れいしないしんのう、白河天皇第3皇女)1078-114467 齋院、堀河天皇皇后、
 通称;二条太皇太后/二条大宮、禎子の姉、
 内親王自身には歌人としての活動は少ないが女房に歌人多数、

☆女房:皇后宮;右衛門佐・少将・摂津・肥後・式部・美濃(上西門院讃岐)・大式(齋院大式)・別当・備前

前齋院;尾張・六条(待賢門院堀河)・出雲

始子内親王(れいしなしいんのう)→遊義門院(ゆうぎもんいん、後宇多皇后/歌) B 4 6 1 8

礼子内親王(れいしなしいんのう、後鳥羽院皇女)→嘉陽門院(かようもんいん、最後の齋院) P 1 5 6 3

禮舎(れいしゃ・川喜田) → 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0

礼孺(れいじゆ・池田) → 玄斎(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人) J 1 8 0 5

嶺樹院(れいじゆいん) → 智馨尼(ちけい・松宮/天野、歌人) N 2 8 5 6

5136 冷袖(れいしゆ) ? - ? 俳;1691北枝「卯辰集」1句入、
[村雨や萩の根にある蜂の声](卯辰集;339)

5135 茶洲(れいしゆ・江上えがみ、訥齋男)1758-1820⁶³ 肥後天草の儒者;
筑前福岡藩学問所甘棠館で父の親友亀井南冥門、1784儒を以て福岡藩に仕官、
1792(寛政4)亀井南冥が貶斥された後;福岡藩校甘棠館の教授、藩主より士分;致仕、
詩文・俳諧を嗜む、1809(文化6)より「成章閣漫筆」、「大学講義」、「茶洲集」著、
[茶洲(;号)の名/字/通称]名;源、字;伯華、通称;源蔵

B5140 靈秀(れいしゆ;法諱) ? - 1818 越前の真宗大谷派祐善寺住職/巖蔵の門人、
1770寮司;七十五法を講ず、「正像末和讃直解」、「真要鈔聞書」著
[靈秀(;法諱)の号] 閑瑞/法雨庵

5137 蛸洲(れいしゆ・寺崎てらさき/三木/修姓;木、名;一貫、大樸男)1761-1822⁶² 越中高岡木舟町の町年寄、
蔵宿を経営、儒者;村瀬栲亭門/詩文;1797皆川淇園門/俳諧、「困譚へんたん」「桜廂奇譚」、
1816「狐の茶袋初篇」編;北越雑俳集/以後昭和まで続刊、1819「蛸洲余珠」24「困談へんたん」、
[蛸洲の字/通称/別号] 字;孟恕/伯道、通称;三木屋半左衛門、
別号;桜廂/紫苑齋/鶯幽霊おうゆうれい

令終(れいしゆ・田村) → 寧我(ねいが・田村たむら、藩儒/詩文) 3 4 5 1

蠶舟(茶洲れいしゆ・何) → 礼之(のりゆき・何[か]、洋学者) G 3 5 1 7

靈重(れいじゆ;法諱) → 華梁(けりょう;道号・靈重、曹洞僧、詩偈) H 1 8 4 2

令柔(れいじゆ;法諱・剛外) → 剛外(ごうがい;道号・令柔、臨濟僧、詩偈集編纂) H 1 9 9 2

礼重((れいじゆ・松室) → 礼重(のりしげ・松室まつむろ、官人/日記) E 3 5 6 9

礼重(れいじゆ・小島) → 礼重(敬重よししげ・小島/児島、藩士) D 4 7 6 2

靈鷲院(れいしゆいん) → 日審(にっしん;法諱・文嘉、日蓮僧) E 3 3 4 6

靈鷲院(れいしゆいん) → 尊栄(そんえい;法諱、天台宗園城寺僧) 2 5 8 7

靈鷲東瀾禪師(れいしゆとうらんぜんじ) → 東瀾(とうらん;道号・宗沢、渡来臨濟僧) H 3 1 9 8

黎樹園(れいじゆえん) → 懈守(かにもり・今泉、国学/歌) F 1 5 6 6

5138 靈順(れいじゆん;法諱、法名;河誉一道)?-1751 伊勢の浄土僧;伊勢西迎院快誉門;出家、宗学研鑽、
伊勢観正庵住、日課念仏六万遍を修す;観経曼荼羅などの研究に専念、「搜玄」著

齡順(れいじゆん・小篠/二宮) → 獻(けん・二宮にのみや、医者) H 1 8 4 6

令緒(れいしよ・藤原) → 令緒(よしお・藤原ふじわら、廷臣/詩人) C 4 7 3 5

礼初(れいしよ・伊林) → 礼初(ひろもと・伊林いばやし/橘、藩士/歌) H 3 7 5 1

蓼嶼(れいしよ・江繫) → 政陽(まさおき・江繫えつき、藩士/和漢学) B 4 0 5 5

5102 麗女(れいじよ・荒木田あらきだ、名;隆/麗、荒木田[榎倉]武遠女)1732-1806⁷⁵ 叔父慶徳武遇の養女、
外宮御師慶徳家雅の妻、幼時より読書/作詩;江村北海門/歌・連歌;西山昌林・里村昌迪門、
1759上京/64大阪住、播州三草城主丹羽家(慶徳家の檀家)の援助で歴史物語作者、詩歌人、
1765「須磨の寝覚」71「月のゆくへ」「桐の葉」「藤波」/72「山の井」「安立が原」73「水尾」、
1774「桃の園生」75「武蔵野」76「岩代」「狭衣」「ひおり」/79「古こ呂の種」82「後午の日記」、
「池の藻屑」「荒木田麗女句集」「麗女世継物語」著、「慶徳麗女の伝」「慶徳麗女遺稿」外多数、
[麗女(;通称)の字/別通称/号]字;子奇、別通称;慶徳麗女、号;紫山/清渚、法号;宝寿院

礼助(れいじよ/あやすけ・志村) → 天目(てんもく・志村むら、篆刻家/俳人) E 3 0 4 0

令助(れいじよ・寺村) → 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9

5139 靈勝(れいしゆ;法諱) ? - ? 江前期真宗僧;信濃長命寺住職、

- 「御伝絵説詞略鈔」著
- 5140 **靈照**(れいしょう;法諱) 1679 - 1750⁷² 武蔵恩方の真言宗宝生寺住の真言律僧、江戸湯島の靈雲寺の慧光(えう;1666-1734)門;1720同寺大悲心院で大日經奥疏の口授を受、1734慧光の衣鉢を受ける、武蔵八王子小田野村靈照庵を開基、律師、1720「大疏安雲伝」、「大日經疏伝授私記附玄談」著、「大日經伝授除未伝法人文処口訣聞書附後問答印信伝授聞書」著
- B5141 **靈照**(れいしょう;法諱) ? - ? 江後期真宗大谷派僧;加賀の兼念寺住職、1813(文化10)「御正忌御文講義」著
- B5142 **靈城**(れいじょう;法諱) 1789 - 1868⁸⁰ 加賀小松の真宗大谷派称仏寺住職;深励門、1823高倉学寮寮司;副講を勤める、加賀石川郡松任の本誓寺中妙蓮寺に没、1842「伊呂波歌邪正辨」48「御文五帖目第十二通講義」/58「因明大疏聴記」「教行信証講義」、「御文大意」「広文類随聞記」「言南無者聴記」「二種深信要論」「改悔文靈城説」外著多数
- 嶺松(れいしょう) → 嶺松(りょうしょう;号、江戸前期俳人) I 4 9 1 3
 嶺松(れいしょう;字・松本) → 文暉菴(ぶんきあん・松本、武州俳人) E 3 8 9 7
 麗照院(れいしょういん) → 治好室(はるよしのしつ・松平定姫、定信妹) H 3 6 0 7
 靈松院(れいしょういん) → 淳子(あつこ・伊達/鍋島、歌人) E 1 0 5 6
 靈承院(れいしょういん;法号) → 利濟(としだ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
 靈昌院(れいしょういん・渡辺) → 吉光(よしみつ・渡辺わたなべ、武将) H 4 7 5 1
 嶺松軒東甯(れいしょうけんとうねい) → 精斎(せいさい・新井/志謙、医者/俳) I 2 4 2 3
 靈松道人(れいしょうどうじん) → 義端(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学) L 1 6 1 8
 靈神(れいしん・留守) → 希斎(きさい・留守すけ/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2
 令新亭(れいしんてい) → 氏祐(うじすけ・丹羽にわ、商家/心学者) 1 2 3 3
- 5141 **澧水**(れいすい・竹原たけはら) ? - 1822 大阪の代々医者/書:趙陶齋門/篆刻にも長ず、「耽古堂印譜」著、
 [澧水(;)号)の名/字]名;吉、字;孟榮/黄離
- 5142 **澧水**(れいすい・増島増嶋まじま/本姓;平、信都男) 1743-1812 江戸の生/幕臣;1748家督継嗣、1795幕府書物奉行、儒:初め徂徠学修学/のち程朱学、天文・暦法・音韻・算学を研究、さらに日本の旧典・古言・古音の研究、「異称日本伝事实」「国韵語」「国語考」「天文考」、「発字解」「小学纂説」「澧水文稿」著、蘭園の父、
 [澧水(;)号)の名/字/通称/法号]名;信興/信道、通称;藤之助/金之丞、法号;直方院
 冷水(れいすい・岡田) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6
 麗水(れいすい・峰岸/桑原) → 北林(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E 3 9 0 9
 麗水(れいすい・福岡) → 孝茂(たかしげ・福岡ふくおか、藩老/和漢学) Z 2 6 2 8
- 5143 **靈瑞**(れいずい;法諱・一現/南竜;字) 1721-1804⁸⁴ 讃岐高松の真言僧;讃岐白峰寺離言門、のち高野山で顕密二教を修学/声明;普門院の廉峯門、密花院を開創;修禅三昧を送る、1769「密宗諸法会儀即」著、「仏名会法則」編/「太師誕生会法則」「大般若法則」外著多数、
 [靈瑞(;)法諱)の通称]讃岐靈瑞/密花院靈瑞
- B5143 **靈瑞**(れいずい;法諱、俗姓;矢野) 1751-1827⁷⁷ 阿波富田の真言僧;高野山報恩院住、檢校/座主、悉曇学に精通、「梵字悉曇字母并積義発軫」著、
 [靈瑞(;)法諱)の通称]阿波靈瑞/大空靈瑞/功德靈瑞
 靈瑞(れいずい;号、靈瑞院) → 宣澄(せんちよう;法諱、大谷派僧/俳人) M 2 4 9 6
 靈瑞(れいずい;法諱) → 竜靈瑞(りゅうれいずい、曹洞僧) F 4 9 8 6
 麗水舎(れいすいしゃ・小金丸) → 金生(かねお・小金丸こがねまる/澄川、国学/歌) U 1 5 6 1
- 5144 **令輔**(れいすけ・榊さかき) 1823 - 1894⁷² 伊勢津藩士;江戸藩邸に生/蘭学:杉田成卿門、幕臣;幕府宝蔵番/蕃書調所教授手伝/1858初の活字方;活字御用出役/活字印刷事業参画、維新後;海軍省に出仕;地理寮・修史局を歴任、画;服部北溟門、油絵・洋式木版彫刻の研究、1854「火技全書図」56「魯西亜字筌」著、
 [令輔(;)通称)の名/号]名;綽、号;篁邨/零雨山房主人
 礼助(れいすけ・山平) → 伴鹿(ともか・山平やまひら、歌人) E 3 1 5 8
 礼助(れいすけ・鈴木/鱸) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸すずき、詩人) R 2 2 5 6

礼助(れいすけ・桂) → 之清(ゆききよ・桂かつら、藩士/国学者) E 4 6 4 3
 礼助(れいすけ・岸田) → 素屋(そおく・岸田きしだ、町役人/俳人) J 2 5 3 3
 礼助(れいすけ・橋屋/宮下) → 祥胤(よしたね・宮下みやした、商家/国学) P 4 7 4 5
 礼介(れいすけ・宮田) → 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学) L 1 0 6 0
 礼甫(れいすけ) → 万樹(ばんじゅ・藤田ふじた、文筆家) H 3 6 9 1
 令助(れいすけ・寺村) → 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9
 令世(れいせい・吉田) → 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6
 令正(れいせい・九里くのり) → 令正(よしまさ・九里くのり・藩士) H 4 7 1 1
 令政(れいせい・中村) → 覚左衛門(かくざえもん・中村なかむら、藩士) J 1 5 8 7
 礼政(れいせい・浅井) → 礼政(のりまさ・浅井あさい、藩士/天文学) F 3 5 7 9
 礼成(れいせい・今村) → 礼成(ひろなり・今村/伴/源、和算家) G 3 7 7 3
 麗正(れいせい・牛丸) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9

B5162 冷泉(れいぜい・上西門院じょうさいもんいんの、)?-? 上西門院統子内親王(1126-89/待賢門院女)家女房、
 歌人;1136清輔[続詞花集]入、
 [七月八日よみ侍りける、

程もなくほしあひの空の明けぬればかさねもあへぬ天の羽衣](続詞花;秋162)

5145 冷泉(れいぜい・花園院はなぞのいんの、葉室[藤原]頼任女)?-? 花園天皇の女房/花園院典侍、
 祝子内親王の母、歌人;1343(康永2)「院六首歌合」参加、
 勅撰13首;玉葉(1479)続千(566)風(8首347/816以下)新千(420)新拾(1390)新続古(1306)、
 [うくつらき人のおもかげわが涙ともにぞうかぶ月のよすがら](玉葉;恋1479/別当名)、
 [花園院冷泉(;女房名)の名/別称]名;頼子、

別称;中納言局ちゅうなごんのつばね/別当典侍べつとうのすけ/院冷泉いんのれいぜい

冷泉(れいぜい・崇光院) → 崇光院冷泉(すこういんのれいぜい、女房/歌人) D 2 3 3 1
 冷泉(れいぜい) → 公相(きんすけ・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 1 8
 冷泉(れいぜい;号) → 実俊(さねとし・西園寺/藤原、公相男/歌) D 2 0 3 0
 冷泉(れいぜい・昭訓門院) → 大納言(だいなごん・昭訓門院、歌人) B 2 6 9 6
 冷泉(れいぜい・北畠) → 持房(もちふさ・北畠きたばたけ、廷臣/歌人) B 4 4 6 1
 冷泉院太皇太后宮(れいぜいいんのたいこうたいごうぐう) → 昌子内親王(しょうしないしんのう)

5146 冷泉羽林(れいぜいいうりん;羽林は近衛府の唐名)?-? 1296?早歌「宴曲抄:名取河恋/暁別」作詩
 2 説 → 為道(ためみち・二条、歌人) 2 6 7 7

→ 為兼(ためかね・京極、歌人)[吉田説] 2 6 5 8

霊星閣(れいせいかく) → 石陽(せきやう・野田、藩士/儒;徂徠学) D 2 4 9 3

冷泉古風(れいぜいこふう) → 古風(ひさかぜ・加藤かとう、藩士/歌人) 3 7 9 1

冷泉前太政大臣(れいぜいさきのだいじょうだいじん;玉葉/続後拾以下) → 公相(きんすけ・西園寺) E 1 6 1 8

冷泉太政大臣(れいぜいだいじょうだいじん;続拾/新後撰/続千) → 公相(きんすけ・西園寺) E 1 6 1 8

冷泉大納言(れいぜいだいなごん) → 隆房(たかふさ・藤原ふじむら、廷臣/歌人) D 2 6 6 6

冷泉大納言(れいぜいだいなごん) → 公泰(きんやす・洞院、南朝右大臣/歌) E 1 6 8 1

冷泉中納言(れいぜいちゅうなごん) → 朝隆(あさたか・藤原、廷臣/記録) 1 0 9 9

5104 冷泉天皇(れいぜいてんのう、名;憲平、村上天皇第2皇子)950-101162 母;皇后安子(藤原師輔女)、
 950(天曆4)立太子/963元服/967即位、生来病弱故に藤原実頼が関白、以後摂関は常設、
 在位中;969(安和2)左大臣源高明の左遷(安和の変)が起る/弟守平親王(円融)に譲位、
 冷泉院を御所とし東三条南院に没;追号;冷泉院、花山天皇の父、
 歌人;「冷泉院御集」、万代集入、
 勅撰4首;詞花(332;親子の愛の贈答)/新古今(1575)新千載(646)新続古今(909)、
 [年へぬる竹のよはひを返しても子のよをながくなさむとぞ思ふ](詞花;雑332、返歌、
 親の年齢を返上してでも子の寿命を延ばしたい/世と竹の節よを掛ける/長くは竹の縁語、
 息子の花山院の贈歌;たかむな(筍)を贈り添える歌;詞花331、

世の中にふるかひもなき竹のこはわがつむ年をたてまつるなり、

生きる価値のない子は自分の積むべき年を父贈りたい/親王の異称を竹園という)

冷泉入道前右大臣(れいぜいにゅうどうさきのうだいじん) → 公泰(きんやす・洞院、歌人) E 1 6 8 1

- 冷泉古風(れいぜいのこふう) → 古風(ひさかぜ・加藤かとう、藩士/歌人) 3 7 9 1
- B5137 冷泉武衛(れいぜいのぶえい) ? - ? 武衛は兵衛府の唐名、
 早歌;1296?「宴曲集;龍田河恋/和歌」作詩
 比定者2説 → 為家(ためいえ・藤原、歌人)[野間説] 2 6 5 5
 → 為相(ためすけ・冷泉、歌人)[旧説] 2 6 6 1
- 冷泉宮(れいぜいのみや) → 頼仁親王(よりひとしんのう・冷泉宮、配流) J 4 7 5 7
- 礼成門院(れいせいもんいん) → 後京極院(ごきょうごくいん・後醍醐中宮禧子) C 1 9 3 3
- 冷石庵(れいせきあん) → 水竹(すいちく・福谷、俳人) E 2 3 8 3
- 5106 靈泉(れいせん;道号・慧照えしょう;法諱)1707-8377 肥後天草郡大矢野の曹洞僧:
 天草の正覚寺5世玄瑞慧達門;出家/嗣法、1732(享保17)正覚寺6世住持、天草東向寺;中興、
 迦葉軒に退隱、1778(安永7)「靈泉慧照禪師法語」著
- 5147 醴泉(れいせん・字野うの)1722-1779 代々近江守山の豪家、儒者/詩文、
 江村北海・伴蒿蹊と交流、「醴泉遺稿」
 [醴泉(;号)の名/字/通称]名;元章、字;成憲、通称;長左衛門
- 5148 靈仙(れいせん;道号・真寿しんじゅ;法諱)1782-185170 近江蒲生郡日野村の黄檗僧:
 1790(9歳)日野村の正明寺の華頂文秀門/出家;1806(文化3)嗣法、諸方遍学、
 1815菩提寺住持/1836(天保7)正明寺18世住持、「芙蓉集」「芙蓉草稿」「閑言語」「蝸廬余稿」、
 1839「華頂禪師仮名法語」「華頂禪師語録」「華頂禪師行由録」編、「法輪雜集」著、外著多数、
 [靈仙真寿の号]無為/蝸廬
- B5150 令仙(れいせん;法諱・松山)1814-186956 尾張の生/弘化1844-48頃三河花岳寺に入;得度、
 1865(慶応元)信濃木曾福島興禪寺住職、詩人;山村良醇・寺沢牛岩と交流、
 武居用拙主宰の詩社[攻玉社]入;牛岩と共に活動/病没、「如菴詩抄」著
- 靈泉(れいせん) → 靈泉(りょうせん;法諱・恵本;道号/臨濟僧)M 4 9 4 7
- 靈泉(れいせん) → 靈泉(りょうせん;法諱・三輪、僧) M 4 9 4 8
- 靈全(れいぜん) → 靈全(りょうぜん、銀杏和尚、講釈師) I 4 9 6 1
- 靈泉和尚(れいせんおしょう、臨濟僧) → 龍派(りゅうは;法諱・江西こうせい/こうぜい) 4 9 1 2
- 靈泉斎(れいせんさい) → 仁如(にんじょ;道号・集堯;法諱、臨濟僧/詩文)G 3 3 9 7
- 礪川堂(れいせんどう) → 信春(のぶはる・遠山、軍記作者/歌人) C 3 5 8 1
- 礼助(れいすけ・武居) → 敬斎(けいさい・武居たけい、儒者) F 1 8 6 3
- 礼宗(れいそう・仁科) → 白谷(はっこく・仁科、儒者) F 3 6 2 2
- 礼三(れいそう・上甲) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1
- 礼造(れいぞう・松田) → 本生(もとなり・松田まつだ、藩医/歌人) L 4 4 3 9
- 礼蔵(れいぞう・松村) → 春雄(はるお・松村、国学者) G 3 6 0 6
- 礼蔵(れいぞう・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1
- 礼蔵(れいぞう・松永) → 乙人(おつじん・松永まつなが、俳人/浄瑠璃)D 1 4 1 9
- 礼蔵(れいぞう・杉村) → 宗友(むねとも・杉村すぎむら、神職/俳人) B 4 2 9 2
- 礼蔵(れいぞう・森) → 泐石(ろくせき・森もり、篆刻家) 5 2 9 5
- 礼蔵(れいぞう・佐々) → 泉翁(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者)E 2 4 9 6
- 鈴蔵(れいぞう・加須屋) → 武義(たけよし・加須屋かずや/岩越、藩士/歌)W 2 6 3 9
- 麗蔵(れいぞう・末田) → 道磨(みちまる・末田すえだ、書肆/国学者) C 4 1 6 2
- 蠡測子(れいそくし) → 尚房(なおふさ・野村、歌人) 3 2 0 3
- 靈尊(れいそん) → 靈尊(りょうそん、奈良期法隆寺僧) I 4 9 6 9
- 靈台院(れいだいいん;諡) → 直基室(なおもとものしつ・松平、布連、歌人) C 3 2 7 4 ;
- B5144 靈沢(れいたく;法諱) ? - ? 江中期浄土僧;山城如来寺廓誉上人門、同寺住、
 廓誉の33回忌に発願し美作誕生寺より京知恩院に至る法念の遺跡を巡拝;案内記編纂、
 1764(明和元)「廿五ヶ所巡拝行程案内記」著
- 5150 麗沢(れいたく・志村むら、名;時敏、東嶼男)1783-1850 仙台藩儒;家学を受け藩校養賢堂指南役、
 「心情詩卷」「展采集」著、
 [麗沢(;号)の字/通称/別号]字;子訥、通称;東之進、別号;交翠
 麗沢(れいたく・青地) → 浚新(しゅんしん・青地、儒/文筆) K 2 1 0 0

- 麗沢園(れいたくえん) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人) P 3 1 6 1
 麗沢窩(れいたくか) → 精斎(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4
 麗沢舎(れいたくしゃ) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
 麗沢堂主人(れいたくどうしゅじん) → 晩翠(ばんすい・駒井、儒者) I 3 6 1 9
 麗沢之舎(れいたくのや) → 石橋(せつきょう・鈴木、儒家/教育者) E 2 4 1 4
 零太郎(伶太郎れいたろう・岡部) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学/歌) G 3 6 7 6
 靈太郎(れいたろう・土持) → 信贇(のぶよし・土持ひもち、庄屋/書/歌) J 3 5 8 1
- B5145 **靈潭**(れいたん;法諱/了性;別法諱、了慶男)1689-1769⁸¹ 越中の真宗本願寺派明光寺の生、幼名;威相/父を継嗣;明光寺14世、真宗学;知空門/華嚴;鳳潭門、慈航・峻諦門、「御絵伝教授鈔」「教観略解」「諸宗大意」著
- 5151 **靈潭**(れいたん;道号・魯竜ろりゅう;法諱、俗姓;桑原)1746-1806⁶¹ 但馬千原の曹洞僧;但馬竜満寺の象山問厚門;出家、長年諸方遍学;1782(天明2)越後の松月石了の法嗣、1789井伊家に招聘;井伊家菩提寺の武蔵世田谷豪徳寺住/1803(享和3)宇治興聖寺23世、興聖寺に没、「真贇偈頌」「靈潭和尚四処録」著、[靈潭魯竜の号] 鳳字
- 5152 **靈潭**(れいたん;法諱/諡号;浄曜院、蘭溪の長男)1798-1874⁷⁷ 豊後真宗本願寺派西方寺の僧;父門、1825(文政8)阿波光善寺の住職、宗余乗;雲幢・芳樹・聞号門、悉曇学;閑々道人門;神道要義も修学、1873勸学、「易行品記」「十不二門指要鈔見聞雑録」著
- 靈潭(れいたん;字) → 性激(しょうちやく;法諱・靈潭、浄土僧) K 2 2 9 0
 靈致(れいち/りょうち;法諱) → 天境(てんきやう;道号・靈致、臨濟僧) D 3 0 3 3
 鈴痴符(れいちふ) → 容斎(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5
 令茶(れいちや・山李坊) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4
- 5153 **嶺沖**(れいちゅう;道号・元漢げんかん;法諱)?-1740 黄檗僧;慧極道明門/1699(元禄12)法を嗣ぐ、1723山城宇治万福寺の塔頭聖林院住持/31河内丹南郡今井村の法雲寺住持に転ず、「慧極禅師年譜」編/「弘戒引請内規」編、1726(享保11)「黄檗山小清規」著 [嶺沖元漢の初道号/号]初道号;嶺翀れいちゅう、号;白痴
- 靈澄(れいちよう;法諱) → 竜潭(りゅうたん;初法諱、僧) F 4 9 1 6
 齡椿年(れいちんねん) → 公鼎(こうてい・上田うえだ、眼科医/国学) K 1 9 7 1
 鈴亭主人(れいていしゅじん・うた沢節) → 谷峨(2世こが・梅暮里、俳/戯作/うた沢節) C 1 9 3 5
 藜藿庵(れいてきあん) → 青岐(せいき・上野うえの、商家/俳人) 2 4 9 5
- 5154 **靈典**(れいてん・義淵坊)1180 - ? 神護寺僧;上覚の付法、華嚴僧;明恵門、高山寺住、1211(建暦元)明恵勸進八十華嚴書写に参加、歌人;1248明恵上人歌集入、[春風に氷とけゆく谷川を震ぞ今朝は立ちわたりける](明恵歌集;119)
- 令典(れいてん・宮脇) → 臯畝(こうほ・宮脇みやわき、俳人) L 1 9 1 8
 麗天(れいてん・平松) → 理準(りじゅん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
 靈伝(れいでん・りょうでん;法名) → 義門(ぎもん・靈伝、東条、真宗僧/国学) B 1 6 8 7
- 5155 **令道**(れいどう・和尚) ? - ? 浄土僧;三善山正法寺の住僧、1763「祐天僧正年代記」を説法(;のちの実録小説「祐天上人御一代記」につながる)
- 参考 → 祐天(ゆうてん・顕誉愚蒙、浄土僧)
- 茶道(れいどう・りょうどう;字) → 亮碩(りょうせき;法諱・茶道、天台僧) I 4 9 4 9
 令徳(れいとく) → 令徳(りょうとく・鶏冠井かでい、俳人) 4 9 2 2
 令徳(れいとく・井伊) → 直憲(なおのり・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 9
 令徳(れいとく・熊谷) → 令徳(よしのり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9
 靈督(れいとく・りょうとく;字) → 鳳山(ほうざん;法諱、融通念仏僧) B 3 9 1 2
- 5156 **荔墩**(れいとん・豊岡とよおか、初姓;坂東)1808-80 阿波宮島浦の庄屋、漢学;鉄復堂に修学、1835(28歳)郷正、のち徳島藩訳書局員、致仕後;芳野川の利水を研究、詩文・書画を嗜む、「荔墩日曆」著、[荔墩(号)の名/字/通称/別号]名;保煌、字;霞挙、通称;黙之丞、別号;酔叟
- 荔墩(れいとん・熊谷) → 荔斎(れいさい・熊谷くまがい、儒者/詩文) 5 1 2 8
 荔墩散人(れいとんさんじん・熊谷) → 荔斎(れいさい・熊谷くまがい、儒者/詩文) 5 1 2 8

- 5157 **嶺南**(れいなん;道号・秀恕しゅうじょ;法諱、俗姓;吉岡)1675-175278 武蔵荏原郡の曹洞僧:
1689(15歳)江戸青松寺の如実秀本門;出家/のち法嗣、1716青松寺20世、1727退隠;著作、
1716(享保元)「道灌居士伝」著/17「万年山開闢考証」著「万年志」編
1727(享保12)「日本洞上聯燈録」編纂完成(;日本曹洞宗僧の叢伝)、44「日本洞上宗派図」著
- 5158 **嶺南**(れいなん・野見のみ、敬勝男)1732-94 土佐高岡郡須崎村の医者/高知城下下知村で医業、
のち香美郡下田村に移住、詩・歌人、郷土史;戸部愿山門、土佐日記の[おほみなと]の考証、
土佐各地の旧事・遺聞の調査・考証、「大港図絵」「石船紀行」「石邑采録」「津野家譜」、
「津野実記」「土佐大明神伝」「南奥三医伝」「山内系図」、「嶺南詩集」「嶺南歌集」外著多数、
[嶺南(;号)の名/字/別号]名;照顔、字;煒煌いこう/聖愈、別号;大港/天柱/菱花山人
- 5159 **嶺南**(れいなん・関屋せきや) ? - 1831 代々岩代二本松藩医;関屋家5代目、
すぐれた門弟を輩出、1822(文政5)「古方枢要」著、
[嶺南(;号)の名/通称/法号]名;仲敏、通称;里美、法号;円浄院
- 5160 **嶺南**(れいなん・保岡/安岡やすおか)1803-68 武蔵川越の儒者;長野豊山門、川越藩の儒官、
1827(文政10)博諭堂教授;川越版「日本外史」刊刻に尽力/1863致仕、江戸で子弟教育、
1842-68「嶺南日記」44「中庸新説」59「周易包蒙撮要」64「寒斎保岡先生詩集愛緑斎詩集」、
「嶺南詩文集」「寒斎詩集」「保岡寒斎詩集」「寒斎文鈔」「保岡嶺南父子文稿」著、
「博諭堂詩文集」編、川莊(眠軒)の父、
[嶺南(;号)の名/通称//別号]名;孚、通称;元吉、別号;眠軒/鳳鳴/寒斎/近仙居、
致仕後;随翁、
- 嶺南(れいなん・木村) → 蓬萊(ほうらい・木村、儒者、詩人) C 3 9 6 6
嶺南(れいなん・源) → 誠美(しげよし・源みなもと、曆算家) T 2 1 1 3
礼忍(れいにん;法諱) → 梅嶺(ばいれい;道号・礼忍、臨濟僧) C 3 6 3 1
靈仁(れいにん) → 靈仁(りょうにん、僧/縁起作者) J 4 9 1 5
礼之介(れいのすけ/あやのすけ?・何) → 礼之(のりゆき・何[か]、洋学者) G 3 5 1 7
- 5161 **靈波**(れいは;法諱・性通;字、俗姓;足利)1290-137788 相模鎌倉の華嚴僧;称名寺湛睿たんえい門;出家、
南都に赴く/沙弥戒;盛誉門/菩薩戒;俊才門、七寺巡り諸経論を研鑽、東大寺戒壇院に修学、
称名寺に帰り没、1334「五教章問題」「華嚴五教章見聞鈔」/47「五教章夢袋」、「五教義解集」、
「五教章上巻私見聞抄」「起信論私鈔」「律興要伝」「文斉鈔」「戒壇系図通詳記」著
- 5162 **澧波**(れいは;号) ? - ? 江後期肥前諫早の俳人、1801「あふき双昏」編
鈴波(れいは) → 蝶羅(ちようら・下郷しもさと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7
礼八(れいはち・野辺地) → 馬遊(ばゆう・野辺地のべち、俳人) F 3 6 7 8
- 5163 **麗白**(れいはく) ? - ? 俳;1772几董「其雪影」入、
[枯草の根ほり葉ほりや雪転こかし] (其雪影)
- 5164 **隸尾**(れいび・伊藤いとう、通称;英輔) ?-? 江後期文化文政1804-30頃仙台の和算家;武田司馬門、
江戸長谷川道場の助教(千葉流峰と共に)、「斎約新術」「九章算法」「諸約術雑題」編、
「算法角術真理」「問題定式抄」「点竄初学考」編/「算法雑象浅問解」著
礼美(れいび・熊谷) → 知周(ともちか・熊谷くまがい、藩士/国学者) V 3 1 0 5
靈苗(れいびょう→れいみょう) → 天産(てんさん・靈苗、曹洞僧1676-1743) D 3 0 5 3
靈苗(れいびょう→れいみょう) → 独産(独山どくさん・靈苗、曹洞僧?-1760) K 3 1 7 9
礼夫(れいぶ・田中) → 清溪(せいけい・田中たなか/田、医者/詩人) 2 4 0 7
- 5165 **冷風**(れいふう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮の実」2句入、
[村雨に蚊のかたまりし窓の先](蓮の実;253)
- 5166 **冷風子**(れいふうし) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1729(享保14)「新雪みどり」編、
「俳諧鶯宿梅」著
礼福(れいふく・浮田) → 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多うききた、武将) 3 7 0 8
礼文(れいぶん・加藤) → 礼文(ひろふみ・加藤かとう、国学者) I 3 7 9 8
令文(れいぶん・日下部) → 令文(よしづみ・日下部くさかべ、藩士/国学) M 4 7 5 3
- 5167 **靈鳳**(れいほう;法諱、号;円識/智功)1695-174450 越前坂井の真宗大谷派浄心寺住職、慧然門、
学寮の講経職;約10年務める、1732「弘長遺法類篇」35「観無量寿経義記」、
1741「無量寿経梵響記」、「阿弥陀経隠頭記」「阿弥陀経機教辨疑」著/「譬喩因縁説法鈔撮」編

- 靈鳳(れいほう・吉田) → 鶯湖(がこ・吉田よしだ、藩士/儒詩) H 1 5 8 1
 靈鳳(れいほう・大沢) → 仁竜(にんりゅう;法諱・大沢おおさわ、僧/歌) H 3 3 0 8
 靈峰(れいほう・号) → 純信(じゅんしん;法諱、真宗僧/国学者) O 2 1 9 0
 靈峰(れいほう) → 靈峰(りょうほう;法諱、僧/国学/歌) M 4 9 4 9
 靈鳳院(れいほういん) → 村頭(むらあき・田村たむら/伊達、藩主) D 4 2 8 8
 令睦(れいぼく・橋村/荒木田) → 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7
 礼本(れいほん・三田) → 葆光(かほみつ・三田さんだ、幕臣/歌人) O 1 5 9 8
 黎民(れいみん;字・野崎) → 藤橋(とうきょう・野崎、儒者) C 3 1 8 0
 5168 靈妙(れいみょう;法諱) ? - 1757 浄土僧;恢誉門、江戸芝増上寺で修学、
 檀林の岩槻浄国寺23世/下総飯沼の弘経寺45世、「桂華漫筆」「法門或問」著、
 [靈妙(;法諱)の法名] 聖蓮社神誉沖阿靈妙悟心
 靈苗(れいみょう;法諱) → 天産(てんさん;道号・靈苗、曹洞僧1676-1743) D 3 0 5 3
 靈苗(靈明れいみょう;法諱) → 独産(独山どくさん;道号、曹洞僧?-1760) K 3 1 7 9
 靈明庵(靈猫庵れいみょうあん) → 狙仙(せんそせん・森もり、絵師) D 2 5 9 5
 麗明(れいめい・吉村) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2
 令祐(れいゆう/のりすけ・橋村) → 正令(まさのり・橋村はしむら/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2
 靈雄(れいゆう;字) → 祥道(しょうどう;法諱・靈雄;字、真言僧) L 2 2 2 2
 礼憂也斎(れいゆうやさい) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
 嶺誉(れいよ・耀蓮社;法名) → 智堂(ちどう;法諱、浄土僧) E 2 8 9 1
 靈誉(れいよ・台蓮社) → 鸞宿(らんしゆく;法諱、浄土僧) C 4 8 6 5
 5169 靈曜(れいよう;法諱) 1760 - 1822⁶³ 加賀大聖寺の願成寺の生の真宗大谷派僧:
 越前永臨寺の深励門;宗学を修学、俱舎・法華;真言宗根来大伝法院の法住門、
 悉曇・律;河内高貴寺の飲光門、1796尾張名古屋の真宗大谷派養念寺住職、1805擬講、
 尾張五僧の異義に連座;東本願寺より叱責;一時謹慎、没後;嗣講・講師を追贈、
 1793「一念帰命安心問答」98「御文二帖第一通聞記」1807「一枚起請文講義」、「阿弥陀経記」、
 「改悔文講辨」「改悔文秘録」「言南無者法話」「歎異鈔講林記」「般舟讚講記」外著多数、
 [靈曜の号]鐘山/威広院/威光院/滅度院
 苓陽(れいよう・広瀬) → 淡窓(たんそう・広瀬ひろせ、儒者/詩) 2 6 9 3
 5170 豊蘭(れいらん・武谷たけや、名;祐之、元立げんりゅう男) 1820-94 筑前鞍手郡高野村の蘭医:父門、
 儒詩;月形鶴窠・広瀬淡窓門/西洋医学;1843適塾入学、鞍手郡頭取医/1855福岡藩城代組医、
 藩主侍医/福岡藩医学校設立;督学、「牛痘告論」「南柯一夢」「歴史綱鑑鈔」「癸亥日記」、
 [豊蘭の字/通称/別号]字;元吉、通称;元立(父と同)、別号;椋亭りょうてい/鷗洲/三余学人
 靈蘭(れいらん・向井) → 元升(元松げんしょう・向井、医者/本草) C 1 8 2 2
 靈蘭堂(れいらんどう・向井) → 元升(元松げんしょう・向井、医者/本草) C 1 8 2 2
 5171 嶺利(れいり/みねとし・竹井たけい)?- ? 江戸の俳人;立圃門、1668親信「巳己巳己にしき」入、
 立圃「鵝鷺誹諧」入、1661立以「烏帽子箱」入/1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [涼しさを手のものにする扇哉](手鑑)
 礼亮(れいりょう・牧江) → 冥斎(めいさい・牧江まきえ、漢詩人) 4 3 1 6
 靈陵堂(れいりょうどう) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5
 靈麟(れいりん;字) → 光遜(こうそん;法諱・靈麟、真言僧) K 1 9 4 0
 鈴々舎馬風(れいれいしやばふう) → 馬生(2世ばしょう・金原亭、落語) E 3 6 5 7
 玲瓏閣(れいろうかく) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
 玲瓏閣(れいろうかく) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 冷和(れいわ・細木) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0
 礼和(れいわ・二神) → 礼和(ひろかず・二神ふたがみ、庄屋/歌人) K 3 7 8 8
 レオン(;洗礼名) → 氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/城主/歌) 1 2 3 1
 B5151 礼幾(れいき・後藤ごとう、旧姓;原) 1806-89⁸⁴ 信濃伊那郡の歌人、
 原重与(しげとも1827-1915)・原梅子(?-1885)の母?
 鬲(れき・古屋) → 昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2

- 翮(れき・児島) → 宗説(そうせつ・児島こじま、藩の医者) I 2 5 2 2
 櫟庵(れきあん・号) → 茂叔(もしゆく・道号・集樹・法諱、臨濟僧) B 4 4 2 4
 櫟庵(れきあん) → 雲羅(云良久ら・後南海、俳人) E 1 2 1 0
 櫟陰(れきいん・多紀) → 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9
 5172 **櫟園**(れきえん・村瀬むらせ、名; 観) 1753-9745 江中期江戸の儒者、「時習館詩文稿」著、
 1793「孝経外伝集解」著/95「南郭尺牘標注」編、「孝経鄭注或問」「天目尺牘標注」著/外著多、
 [櫟園(;号)の字/通称/別号]字;子瀾、通称;良助、別号;櫟岡れきこう
 5173 **櫟園**(れきえん・松原まつばら) 1794-186370 越後魚沼郡小出村の年寄/1824苗字帯刀を許可、
 儒者;江戸で斎藤拙堂・寺門静軒・尾台楓川・内藤笨庵と交流、史学精通、
 1843(50歳)岩代会津藩より大割元格・陣屋直達に任命;50余歳で致仕、著述に専念、
 1856「甲越春秋」、「三都紀行」「信州紀行」「外史逸話」「義人伝」「櫟園文詩稿」著、
 [櫟園(;号)の名/字/通称]名;泰最/泰、字;子寧、通称;仁左衛門
 櫟園(れきえん・横山) → 義彦(よしひこ・横山よこやま、歌人/教育) G 4 7 2 2
 櫟園(れきえん・石坂) → 宗珪(宗圭そうけい・石坂いしが、医官) H 2 5 0 0
 櫟園(れきえん・稲岡) → 秋平(あきひら・稲岡いなおか、藩医/歌人) H 1 0 0 3
 櫟園(れきえん・河喜多) → 眞彦(まひこ・河喜多/藤原、国学/歌) G 4 0 5 1
 5108 **櫟翁**(れきおう・小野おの、名;方、忠兵衛男) 1759-181658 代々備中浅口郡長尾村の農家;豪農、
 丹波亀山藩御用達、儒学;西山拙斎門/歌人;澄月・慈延・小沢蘆庵門、木下幸文を保護援助、
 標山の兄/務つとむの父、「櫟翁歌集」著/「櫟翁府君遺稿」、
 [櫟翁(;号)の字/通称/別号]字;仲直、通称;猶吉、別号;玄暢げんちやう/移山亭、
 法号;玄暢櫟翁居士
 方(ほう・小野) → 櫟翁(れきおう・小野おの、農業/歌人) 5 1 0 8
 櫟翁(れきおう・立羽) → 壽角(じゅかく・号・立羽たちば、俳人) I 2 1 5 1
 櫟翁(れきおう・山本) → 達所(たつしよ・山本/福井、典薬寮医者) R 2 6 6 2
 歴我(れきが;法名) → 任口(にんこう/如羊;号、真宗僧/俳人) G 3 3 3 6
 櫟涯(れきがい・武井) → 周朔(しゅうさく・武井、博物学者) X 2 1 3 7
 櫟花人(れきかじん) → 鳳岡(ほうこう・中村なかむら、俳人) F 3 9 2 1
 5174 **櫟軒**(れきけん・重野しげの、名;葆光) ?-? 江後期化政1804-30頃撰津東成郡の漢学者:
 片山兼山・松下葵岡門、日向延岡藩儒、1806「西遊筆記」07「老子解」、「史記節解」「列子解」、
 [櫟軒(;号)の字/通称]字;子潤、通称;宗一
 櫟軒(れきけん・那波) → 葆宿(りっしゆく・那波なば、俳人) C 4 9 0 1
 櫟軒(れきけん・只野) → 克巳(かつみ・只野ただの、国学者) V 1 5 0 0
 B5157 **礼幾子**(れきこ・船曳ふなびき、) 1801-187878 筑後三潁郡の大石神社祠官船曳大枝おおえの妻、
 国学・歌人;夫門、大滋おおしげ(1819-47)・鉄門かなと(磐主いわぬし/1824or28-95)の母、
 夫 → 大枝(おおえ・船曳ふなびき/宮崎、神職/歌) E 1 4 1 0
 櫟岡(れきこう・村瀬) → 櫟園(れきえん・村瀬むらせ、儒者) 5 1 7 2
 櫟谷山人(れきこくさんじん) → 若水(じゃくすい・入江、商家/詩人) G 2 1 3 1
 5175 **櫟斎**(れきさい・阿部あべ) 1805 - 1870 江戸の医者、本草;曾占春・岩崎常正門、
 江戸本石町で本草学を講ず/861(文久元)幕府派遣の咸臨丸に乗船;小笠原諸島の調査、
 英語に堪能、1822「湖魚譜」著/30「聯珠詩格名物図考」編/33「救敷挙要」37「草木育種」著、
 1856「蝦夷行程記」編、「北遊行記」著、62「南嶼行記」、「豆嶼行記」「伊豆七島全図」、
 1867「英吉利文典」「英語箋階梯」、「格物瑣言」「剪燈集異」「出放題集」「又新堂随筆」外著多、
 [櫟斎(;号)の名/字/通称/別号]名;喜任、字;亨/亨父、通称;友之進、
 別号;巴菽園/訂庵ていあん
 櫟斎(れきさい・岡) → 安定(やすさだ・岡おか、商家/本草/救荒) B 4 5 5 2
 櫟斎(れきさい・松平) → 頼学(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌) P 4 7 2 0
 櫟斎(れきさい・村岡) → 良弼(よしすけ・村岡/平/渋谷、儒/詩歌/官僚) P 4 7 5 0
 歴斎(れきさい・宮脇/宮腰) → 忍斎(にんさい・宮川、兵学者/軍記作者) G 3 3 3 9
 櫟材(れきざい・正覚庵) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、古筆家祖)

- 5177 **櫟山**(れきざん・万年まんねん)?- ? 江後期筑前の医者/京に住;医業、「医弊辨」著、1861刊「皇国医系」、「一腑論」「救急論」「三惑論」「傷寒論」「医鞭」「仁術医談」外著多、[櫟山(;)号)の名/字/通称/別号]名;始/純、字;有純、通称;大純、別号;楽山/棟山/栗山
- B5158 **櫟山**(れきざん・村瀬むらせ、通称;孫三郎)1818-7861 飛騨高山の和漢学者;富田節斎(礼彦)門、櫟山(れきざん・成田) → 朝辰(ともしき・成田なるた/羽生、占卜家) P 3 1 9 2
 櫟山(れきざん・宇佐美) → 主善(主膳しゅぜん・宇佐美うさみ、医者) Y 2 1 9 6
 櫟寿庵(れきじゅあん) → 壽庵(じゅあん・北山きたやま、医者) W 2 1 4 5
- 5178 **櫟洲**(れきしゅう・清水しみず、赤城の長男)1800-59 江戸番町の武術/故実、武術;槍・剣・馬術に通ず、書;市河米庵門、儒詩;大窪詩仏門、歌;吉田得水・北村季文門、伊勢流武家故実にも精通、1841(天保12)伊勢長島藩に儒者として出仕、正則・大橋訥庵の兄、1848「貽厥録」著、1853「和戦失得辨」54「銃陣詳節」57「ありやなしや」著、「擬対編」「時弊論」「談兵知要」著、[櫟洲(;)号)の名/字/通称/別号]名;正巡/正直、字;士遠、通称;太郎/英吉、別号;矮竹/二薺にきょう/牛門迂夫
- 5105 **礪川**(れきせん・文日堂ぶんいちどう、姓;中原/平野?)1748-? 1834存 江戸小石川諏訪町の川柳作者:1776頃より前句付作者/桜木連/蓬萊連、1779誹風柳多留一四篇に御幸連一甫名で入、1793頃判者;文日堂と号す;小川連主宰(;)門下に賤丸[四世川柳]・山笑・錦重・雨柳ら)、1805「誹風柳多留三一篇」入;窓梅と両評で和笛追善句合催:以後作者・評者として活躍、1807柳多留三七篇;礪川の単独評、1812;初世川柳23回忌追善会主催、1815?隠居、1831「定連会惣摺本」編、1833「江戸川初会」編、1834川柳百人一首に八十七翁の名で出句、1812「櫻葉ていよう集」著(柳多留六七篇)、[咲くもよし散るも芳野の山ざくら](櫻葉集)、[文日堂礪川(;)号)の別号]一甫(;)初号)/清翁(;)隠居号)
 礪川(れきせん・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
 礪川(れきせん・松平) → 彰子(せいこ・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7
 礪川(れきせん・恒遠) → 醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩) C 2 4 5 0
 礪仙院(れきせんいん) → 了允(りょういん・岡おか、医官) G 4 9 2 6
 礪川山人(れきせんさんじん) → 礪川南嶺(れきせんなんれい、合巻作者) 5 1 7 9
 礪川軒(れきせんけん) → 茂喬(しげたか・市野いちの、和算家) R 2 1 2 4
- 5179 **礪川南嶺**(れきせんなんれい、礪川山人)?- ? 江戸小石川の合巻作者:1821「団扇張替」/23「東模様連理巢籠」「恋湊女護生娘初編」/24「仮名手本三度清書」著、川柳の文日堂礪川との関係は不詳
 礪窓(れきそう・多紀) → 元筋(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9
 礪窓(れきそう・酒井) → 波浄(はじょう・酒井さかい、俳人) E 3 6 5 2
- 5180 **礪亭**(れきてい・足立あだち、江沢養樹3男)?-? 足立長雋ちやうしゅん(無涯)の養子、江後期江戸桶町2丁目の蘭学者;養父門、宇田川榕庵の弟、養父長雋の訳述「医方研幾方劑篇」「医方研幾方劑分類」の校訂、[礪亭(;)号)の名/字/別号]名;栄建/杵(しよ・きね)、字;碎山、別号;天年子
 礪亭(れきてい・相川あいかわ) → 功垂(くだる・相川、歌人) B 1 7 4 0
 礪亭琴魚(れきていきんぎょ、殿村精吉) → 琴魚(きんぎょ・礪亭、読本) D 1 6 9 2
- 5181 **礪堂**(れきどう・安部井あべい/本姓;佐々木)1808-8376 近江蒲生郡安倍井村の篆刻家・京住、孝明・明治天皇の御璽を刻す、1855大窪詩仏著「掌中詩韻牋」補訂、[礪堂(;)号)の名/字/通称/別号]名;弁か、字;大介、通称;音門、別号;芥舟
- 5182 **礪堂**(れきどう・飯淵いづち、藩老飯淵徴月男)1834-190269(76説あり) 伊予吉田藩士;執政/大参事、詩人/書、歌;上田振洋門、廃藩後;大阪・東京で諸藩の旧藩士と交流、西南戦争では西郷方に通じようとして逮捕、4年間松山で獄中生活、「投足夜話」「投足夜話続編」著、「礪堂遺稿」、[礪堂(;)号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;縫殿い、名;貞幹さだもと、字;伯固/眞澄、通称;助左衛門、別号;礪樹/春蜂/磊々山人
 礪樹(れきじゅ・飯淵) → 礪堂(れきどう・飯淵いづち、藩士/詩人) 5 1 8 2
 礪窓(れきそう・酒井) → 波浄(はじょう・酒井さかい、俳人) E 3 6 5 2
 礪堂(れきどう・狩野) → 勝川(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) K 2 2 3 8

曆之助(れきのすけ・佐伯) → 僧梁(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) C 2 5 2 9
 櫛夫(れきふ・西川) → 梨里(りり・西川にしかわ、商家/俳人) J 4 9 8 6
 櫛夫(れきふ・岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかしま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8
 歴木園(れきぼくえん) → 広休(ひろよし・西村にしむら、商家/本草家) H 3 7 7 2
 歴木園(れきぼくえん) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8
 櫛丸(れきまる・岩井田) → 尚行(ひさゆき・岩井田/荒木田、神職) C 3 7 1 2
 歴陽(れきやう・平野) → 庸修(つねなが・平野、医/暦算/史家) C 2 9 8 5
 櫛老人(れきろうじん) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0

B5152 列(れつ・座光寺ざこうじ、号;風孫、旧姓;山村)?-1881 信濃福島の生、
 信濃伊那郡の山吹領主座光寺為巳ためみの後妻/先妻;糸と(?-1820/片桐源栄門歌人)、
 歌人;片桐源栄門、里さと(1831-66/片桐源栄門歌人)の母

冽(れつ・池尻) → 始(はじめ・池尻いけじり、儒者/勤王) E 3 6 4 2
 冽(れつ・井岡) → 桜仙(おうせん・井岡いのおか、本草学者) C 1 4 5 7
 冽(れつ・堀井) → 簡亭(かんてい・堀井ほりい、儒者) R 1 5 4 5
 烈(れつ・高島) → 祐啓(ゆうけい・高島たかしま、幕府医官) B 4 6 3 7
 冽庵(れつあん・五井) → 蘭洲(らんしゅう・五井、儒者/国学) 4 8 0 5
 劣庵(れつあん・宮部) → 鼎蔵(ていざう・宮部、兵学/倒幕運動) B 3 0 4 0
 烈以(れついでい・中村) → 烈以(れい・中村なかむら、歌人) B 5 1 5 6
 列卿(れつけい・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主) E 4 4 4 0
 烈公(れつこう;諡号/芳烈公) → 光政(みつまさ・池田幸隆、藩主/儒者) E 4 1 8 7
 烈公(れつこう・徳川) → 斉昭(なりあき・徳川、藩主/攘夷論) G 3 2 9 8

5183 劣齋(れつさい・奥おく/本姓;源、道栄男) 1780-1835 京富小路御池南の医者;父門、
 3世賀川玄悦門;産科・婦人科を修学、父の医業を継嗣/1824法橋/准三后の治療に功あり;
 1829法眼、「産科伝」「産科手術秘録」「回生鉤胞秘訣」「女科漫筆」「達生園産科外術秘録」、
 「婦人大全良方保座心得」「子癩説」「劣齋先生産科図記」「劣齋漫草」「劣齋漫筆」外著多数、
 [劣齋(;号)の名/字/通称]名;之基/基、字;士讓、通称;道逸

劣齋(れつさい・巢見) → 来山(らいざん・巢見すみ、絵師) 4 8 4 7
 列三郎(れつさぶろう・兼松) → 石居(せききよ・兼松かねまつ、藩/儒/教育) D 2 4 4 0

5107 列山(れつざん・関根せきね、白芹はつきん2男) 1790-1826³⁷ 江戸葛飾派の俳人;白芹門の南台に修学、
 其日庵を継承;7世/馬喰町住、1822「みつの詠」著、1823「白芹叟句集」編、
 [列山(;号)の通称/別号]通称;甚右衛門、別号;花洲/其日庵7世/晩翠園/翠雲堂、
 法号;釈静顔

列樹(れつじゅ・春道) → 列樹(つらき・春道はるみち、廷臣/歌人) 2 9 1 5
 烈女(れつじょ) → 嵐雪妻(らんせつつま、服部はつとり/俳人) C 4 8 8 2

5120 洌水(れつすい) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
 [己おのが器きに満みればこぼす水車](二葉之松96)

B5139 列禪(れつぜん) ? - ? 江中期京住俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」1句入、
 [いかなる草ぞ嗅いで飛ぶ鹿](万国燕;淡々発句竟宴百韻8句目/月に浮かぶ鹿の動き、
 前句;野渡のとに人農具かけたる松の月)

列虫庵(れつちゅうあん) → 梅明(ばいめい・森、俳人) C 3 6 1 0
 烈之助(れつのおすけ・照幡) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2

5109 廉(れん・和田わだ、中台八郎兵衛直綱2男) 1728-1814 出羽庄内藩士和田七郎兵衛政和の養嗣子、
 儒者;1761江戸の松崎観海門/63(宝暦13)江戸で家督相続、庄内藩供小姓/藩主に書を講ず、
 藩の子弟教育、家中由緒改役/雑用方を歴任/1787代官;凶作時の年貢減免など農民救済、
 生祠を建てて祀られる/郡台・藩中老と対立;1795隠居/救金一部着服の理由で知行取上、
 著書数十卷、細井平洲と交流、「観海楼五経論語辨義」「講釈鍼ぜい論」「東籬抄」著、
 「論語聞記」「経義提要国字辨」「跼驥夜話」著、
 [廉(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;九十弥、字;子表、通称;伴兵衛、
 号;子豹/伴平/跼驥きよき

5110 廉(れん・杉山すぎやま/栗山、初名;みよ[美代]、杉山宜葵よしと女) 1736-1808 杉山宜袁よしながの姉、

出羽庄内藩士の家/幼児父母に従い江戸に住、歌人;久米景山門、文章;松宮観山門、
1744(17歳)庄内藩士栗山仙右衛門と結婚;1男1女を産む;のち離縁、歌道に専念、
宮部義正・冷泉為泰門、門弟;白井固・池田玄斎・石田畔見・建部山比子ら、
「杉山廉女詠草」「おそぞくらの記」著

廉(れん・篠本ささもと)	→	竹堂(ちくどう・篠本、幕臣/儒者)	D 2 8 5 8
廉(れん・神崎)	→	小魯(しょうろ・神崎かんだき、儒者/易学)	M 2 2 0 9
廉(れん・草場)	→	船山(せんざん・草場くさば、藩士/儒者)	F 2 4 5 8
廉(れん・岩淵)	→	道教(みちのり・岩淵いわぶら、国学/故実)	I 4 1 1 4
廉(れん・葛西)	→	昌丕(まさひろ・葛西かさい、国学/救民策)	O 4 0 7 5
簾(れん・間部/松平)	→	詮勝室(あきかつのしつ・間部まなべ、松平康任女、歌)	G 1 0 6 0
連(れん・大隈;変名)	→	年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学)	N 3 1 4 3
連(れん・海江田/日下部)	→	訥斎(とつさい・日下部、儒者)	O 3 1 5 1
連(れん・岡部)	→	讓(ゆずる・岡部/賀茂、神職/国学)	G 4 6 4 8
連(れん・岩坂)	→	建平(たけひら・岩坂いわさか/大神、神職)	V 2 6 7 3
連(れん・桜井)	→	信影(のぶかげ・桜井さくらい、神職/国学者)	I 3 5 6 5
連(れん・中村)	→	惟政(これまさ・中村なかむら、藩士/国学者)	R 1 9 0 9
蓮(れん・中村)	→	仏庵(ぶつあん・中村、書家)	D 3 8 2 4
鍊(れん・岡田)	→	閑林(かんりん・岡田おかだ、絵師)	R 1 5 8 3
鏈(れん・酒井/松平)	→	雅子(まさこ・松平まつだいら/酒井、藩主妻/歌人)	P 4 0 1 5
聯(れん・山田)	→	慥斎(そうさい・山田やまだ、儒者)	B 2 5 5 7
斂(れん・鈴木)	→	新蔵(しんぞう・鈴木、医者)	P 2 2 2 1
れん(森本/有村)	→	連寿尼(れんじゆに、有村/森本、歌人)	B 5 1 0 2

5184 **蓮阿**(れんあ;法諱・俗名;荒木田満良/尾崎次郎、家名;家田、荒木田元満2男)1156?-? 鎌倉期神職、
氏良[1153-1222]の弟、伊勢内宮権禰宜/出家、歌;西行門、「西行上人談抄」(西談抄)筆録、
1233刊寂延撰「御裳濯和歌集」約10首入、続後撰1214の作者、
[そむきぬといふばかりにやおなじ世のけふは心にとほざかるらん]、
(続後撰;1214/出家ののち詠む)
[ゆく秋のさそはばいなむと思ふこそ別れむよりもかなしかりけれ](御裳濯集;秋493)

5185 **蓮阿**(れんあ;法諱・俗名;朝定、藤原[宇治]義定男)?-? 鎌倉期内舎人/右兵衛尉、出家;僧、
歌;続後撰1214の作者?

☆続後撰集の蓮阿は元満男か義定男か不明→ **蓮阿**(れんあ・荒木田満良) 5 1 8 4

5186 **連阿**(れんあ・法師、好古堂)1671-1729 59 備後の生/初め藩士、40歳頃出家/諸国行脚;時宗僧、
堂上歌人;武者小路実陰門、のち江戸麻布で武家に堂上歌を指導;亨弁・萩原宗固へ継承、
家集「竹葉集」、「小楠竹葉集」、「くろきの記」「ゆの山ふみ」「つほみのいしふみ」、
1728「木曾の山婦美」著、広通「霞関集」入、
[咲く梅の木間の夕日紅に匂ふがうへの花ぞ色濃き](霞関;春69/紅梅)

5187 **蓮阿**(れんあ;法諱・俗姓;広谷)1700-1757 58 河内石川村浄土僧;1709剃髪;増上寺修学、
和泉堺の旭蓮社24世、歴代記録を輯録;1742「旭蓮社縁起」著、
[蓮阿の法名/法号]法名;便蓮社成誉蓮阿、法号;独妙長順

B5148 **蓮阿**(れんあ/れんな;法諱、西善寺18世静恵2男)1797-1870 74 出羽久保田の真宗大谷派西善寺住僧、
1815(文化11/19歳)上京;高倉学寮入;本宗の法相を修学/寮司、
歌;太田垣蓮月[1791-1875]門;栗田焼も修得、堂上方の西四辻公業・高松保実と交流、
秋田名産[露刷り]の祖ともいう、維新後;教導職/晩年;結庵/説教・歌指導の悠々自適、
吉川忠行・村井政直と共に秋田三歌聖、歌人後藤逸女の師、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[池水の濁ると見しは神無月時雨るる雲のうつるなりけり](大江戸倭歌;冬1073)

[蓮阿(;法諱)の字/名/号]字;宜然ざねん、名;静存、号;静思軒/持名院、通称;蓮阿法師

連阿(れんあ;法名)	→	永綱(ながつな・高倉、故実家)	E 3 2 4 6
蓮阿(れんあ・生駒僧都)	→	良遍(りょうへん;法諱、法相僧/浄土教)	J 4 9 3 7
蓮阿(れんあ)	→	景平(かげひら・香川/梅月堂3世、歌)	L 1 5 2 7

- 蓮阿(れんあ) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2
 練阿(れんあ;字) → 日貞(にっせい;法諱・善慧院、日蓮僧) F 3 3 3 2
 連愛(れんあい・長) → 連愛(つらよし・長ちよう、藩士) E 2 9 5 3
 憐蛙亭(れんあてい) → 草臣(くさおみ・幸田こうだ、国学/歌人) E 1 7 1 8
 蓮阿坊(れんあぼう) → 白尼(はくに・武藤、俳人/仮名詩人) D 3 6 7 7
 蓮阿菩薩(れんあぼさつ) → 良遍(りょうへん;法諱、法相僧/浄土教) J 4 9 3 7
 蓮阿弥陀仏(れんあみだぶつ) → 永綱(ながつな・高倉、故実家)
 蓮庵(れんあん;号) → 法道(ほうどう;法諱、浄土僧) C 3 9 4 0
 蓮庵(れんあん・戸川) → 安清(やすずみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6
- 5188 **蓮意**(れんい;法諱) ? - 1132 大和の真言僧:幼少時高野山で諸師につき修学、
 四面堂を建立、毎年法華八講会を修す、多くの人に写経を勧める、「壇鏡記」著
- 5189 **蓮位**(れんい/れんに;法諱、別法諱;法阿、俗名;下間しもつま宗重むねしげ) ?-1278 常陸下妻の真宗僧:親鸞門、
 下妻三月寺で布教活動、京に移住;親鸞の晩年側近に侍し臨終を看取る、晩年関東に帰る、
 のち本願寺坊官として権威を誇る下間しもつま家の祖、「真宗遺文纂要」著、
 源頼政の後裔で源宗仲男か?、下間宗重の通称;兵庫頭
 蓮位(れんい/れんに;法師) → 定経(さだつね・藤原、廷臣/歌人) C 2 0 0 6
 漣漪(れんい・土井) → 利義(としのり・土井、藩主/詩/俳人) N 3 1 3 5
- 5190 **連一**(れんいつ) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」2句入、
 [梅はたゞいく木の花か合香あはせかう](犬子集;160/梅が香は何種かの花の練り合せ)
- 5191 **蓮茵**(れんいん;法諱、姓;拜郷はいごう) 1808-92 伊勢桑名郡多度の浄土僧;京で高樹院住職、
 歌人:富樫広陰・富士谷御杖門/歌学;僧義門門、維新後;勅命で京在住の華族の歌道師範、
 歌集「巷の碑」を朝廷に献上/「唯心庵歌集」(梅花園蓮茵翁家集)著、「明治類題桑乃若葉」編
 [蓮茵(;法諱)の名/通称/号]名;実道じつどう、通称;竹次郎、号;梅花園/高樹院
 蓮胤(れんいん;法名) → 長明(ちようめい・ながあきら・鴨、歌人/随筆) 2 8 2 7
 連胤(れんいん・鈴鹿) → 連胤(つらたね・鈴鹿/中臣/卜部、神職/国学) E 2 9 4 1
 簾雨斎(れんうさい) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1
- 5192 **蓮恵**(れんえ) ? - 1570 江前期越前の真宗興行寺僧;5代、綽如(しゃくによ)3男玄真の玄孫、
 1689「栄玄聞書えいげんきききき」(栄玄記;蓮如・実如・証如の聞書集):栄玄・正勝らと集成
 蓮恵(れんえ;法号) → 泰宗(やすむね・宇都宮/藤原、武将/歌) D 4 5 2 0
 連榮亭(れんえいてい) → 妙智尼(みょうちに;法号、稻垣諏訪子/歌人) G 4 1 5 8
- 5193 **蓮翁**(れんおう;法諱・号;不染堂、俗姓;近藤) ?-? 江後期日蓮僧、
 1840「東都本化道場記」、「近郊本化道場記」「本化符合記」著
 漣窩(れんか・河野) → 界浦(かいほ・河野、儒者;音韻学) H 1 5 2 0
 恋花(れんか・東) → 佩芳(はいほう・東ひがし/小林、詩歌人) C 3 6 0 6
- 5194 **聯海**(れんかい;法諱) ? - ? 僧;法印、連歌作者:菟玖波集1句入、
 [かすみきえたる有明の月](菟;1079/前句;面影のなきこそ春のわかれなれ)
 蓮海(連海れんかい/蓮海坊) → 心敬(しんけい、歌/連歌) 2 2 2 1
 蓮海(れんかい;字、蓮海房) → 日海(にっかい;法諱・和泉房、日蓮僧) D 3 3 7 6
 簾外舎(れんがいしゃ) → 長教(ながのり・今村、医者) F 3 2 3 4
 連海法師(れんかいほうし/蓮海坊) → 心敬(しんけい;名、権大僧都/連歌) 2 2 2 1
 煉霞翁(れんかおう・服部) → 甫庵(ほあん・服部はっとり、医者) 3 9 0 4
- 5195 **蓮覚**(れんかく;法諱) ? - ? 戦国期修験僧:豊後英彦山霊山寺住、
 大永1521-28頃「修験三十三通記」「修験修要秘決集」伝
 蓮覚(れんかく;法名) → 為兼(ためかね・ためかね・京極/藤原/入江、歌人) 2 6 5 8
 蓮覚(れんかく;法名) → 実行(さねゆき・三条、太政大臣/歌人) D 2 0 7 5
 蓮覚(れんかく;法名) → 皇嘉門院(こうかもんいん、崇徳天皇中宮/歌) 1 9 8 8
- 5196 **憐霞斎**(れんかさい;姓名不詳) ? ? 江中期歌人、1764「新続題林和歌集」編
連歌七賢(れんがしちけん):宗祇「竹林抄」(1476前成立)に選入された連歌師;竹林の七賢人に喩えた
 → 宗砌(そうせい・高山時重) 2 5 1 3
 → 賢盛(かたもり・杉原、宗伊) 1 5 2 1

- 心敬(しんけい・蓮海坊) 2 2 2 1
→ 行助(ぎょうじよ・惣持坊) 1 6 3 4
→ 専順(せんじゆん・池坊) 2 4 3 3
→ 親当(ちかまさ・宮道/蜷川、智蘊) 2 8 0 6
→ 能阿(のうあ/能阿彌、中尾)
- 恋花亭(れんかてい) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1
恋花圃(れんかほ) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1
蓮菅(れんかん;号) → 清三郎(初世せいざぶろう・中村、歌舞伎役・作者) B 2 4 7 0
- 5197 蓮基(れんき;法諱) ? - ? 平安後期の僧/医者;丹波氏の医学を相伝、
1184(寿永3)「長生療養方」著
- 連起(れんき・長) → 連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9
蓮器(れんき) → 玄澄(げんちよう:法号、武将/連歌) L 1 8 3 1
廉義公(れんぎこう) → 頼忠(よりただ・藤原、関白太政大臣/歌) I 4 7 9 5
廉吉(れんきち/やすきち?・鎌田) → 昌言(まさのぶ・鎌田かまた、医者/歌人) F 4 0 8 0
簾吉(れんきち・堀) → 利堅(としかた・堀ほり、幕臣/大目付) M 3 1 2 2
憐夔道人(れんきどうじん) → 南溟(なんめい・斎藤さいとう、儒者) 3 2 3 8
連久(れんきゆう・森) → 連久(つらひさ・森、神職) E 2 9 4 6
蓮居(れんきよ;号) → 性憲(しょうけん;法諱・慈空、浄土西山派僧) I 2 2 4 3
- B5161 廉慶(れんきよう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、
[さよふかみひのくま川やこほるらむ駒うちわたす音のさやけさ](檜葉;羈旅664/冬歌)
- 5198 蓮教(れんきよう;法諱、性善男) 1451-9242 父は京山科の真宗仏光寺12世、甘露寺親長の猶子、
1469仏光寺を継職、1482有力末寺と門徒を率いて仏光寺を去り本願寺に帰属、
蓮如から蓮教の名を授与/山科に興正寺開創、「正信偈聞書」著、
[蓮教の初法諱]初法諱;堯円/経豪、諡号;願乗院
- 5199 蓮郷(れんきよう) ? - ? 江中期江戸の俳人、
1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入(;3世湖十中心)、
[むめ沢の鱈なますは寒き桜かな](双猿路談)
- 連恭(れんきよう・長) → 連恭(つらやす・長ちよう、藩士) E 2 9 5 2
- 5121 蓮行(れんぎよう;法諱、通称;六郎兵衛入道) ?-? 鎌倉期南都の絵所の僧?/絵師:
鎌倉極楽寺の開山の忍性の命で1298(永仁6)「東征絵伝」画:
(鑑真が唐招提寺建立までの行状記/詞書は淡海三船「唐大和上東征伝」等を和文化)
- 蓮行房(れんぎようぼう) → 澄憲(ちようけん;法諱、天台僧/唱導の祖) 2 8 2 2
聯玉(れんぎよく・韓/山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
蓮空(れんくう;法名) → 親長(ちかなが・甘露寺、故実/詩歌) 2 8 0 4
蓮空(れんくう;法号) → 舜海(しゆんかい;法諱、浄土僧/国学) O 2 1 8 8
- B5100 練句主人(れんくしゅじん;姓名不詳) ?-? 江戸の俳人/雑俳;
1712「さすの神子みこ」冠楽堂人と共編
- 蓮家(れんけ;法名) → 重家(しげいえ・藤原、歌人) 2 1 1 0
蓮花庵(れんげあん) → 不白(ふはく・川上、茶人/俳人) D 3 8 6 3
蓮華庵(れんげあん) → 大心(だいしん;道号・義統;法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1
蓮華庵主(れんげあんしゅ;号) → 万智(ばんち;道号・要門;法諱、曹洞僧) I 3 6 4 0
蓮溪(れんけい) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1
蓮経(れんけい;法名) → 季経(すえつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 3 0 7
廉慶(れんけい;法諱) → 廉慶(れんきよう;法諱、僧/歌人) B 5 1 6 1
廉溪(れんけい;通称) → 乗応(じようおう;法諱、本願寺派僧) H 2 2 3 9
廉卿(れんけい・永井) → 義端(ぎたん・永井ながい、藩士/詩人) L 1 6 1 9
廉卿(れんけい・広瀬) → 淡窓(たんそう・広瀬、儒/詩人) 2 6 9 3
廉卿(れんけい・久野) → 其律(きりつ・永日庵えいじつあん、狂歌) D 1 6 7 2
連溪庵(れんけいあん) → 棠功(とうこう・鴨田かもだ徳雄、俳人) D 3 1 9 2
連溪庵(れんけいあん) → 南枝(なんし・春暁亭、俳人) J 3 2 1 4

- 蓮華院(れんげいん;号) → 明達(みょうたつ;法諱、天台僧) G 4 1 5 6
 蓮華院(れんげいん) → 道永親王(どうえいしんのう、真言僧/歌/連歌) B 3 1 3 7
 蓮華院(れんげいん) → 日題(にちだい;法諱・殘隆院、日蓮僧) C 3 3 7 9
 蓮華院(れんげいん;号) → 崇言(そうごん;法諱、真宗大谷派僧) H 2 5 3 2
 蓮花覚(れんげかく;法名) → 頼通(よりみち・藤原、寂覚、歌人) 4 7 3 9
 蓮華寺(れんげじ、法名) → 頼政(よしまさ・源、武将/廷臣/歌人) 4 7 3 6
 蓮華寿院(れんげじゅいん;諡号) → 尊祐親王(そんゆうしんのう、天台座主) F 2 5 8 0
 蓮華心叟(れんげしんそう) → 要中(ようちゅう;道号・通玄、黄檗僧) B 4 7 4 6
 蓮華谷僧都(れんげだにのそうず) → 明遍(みょうへん;法諱、空阿/信西男/念仏僧) G 4 1 6 8
- B5103 蓮月(れんげつ) ? - ? 江中期俳人;1772凡董「其雪影」1句入;
 [夏瘦せの戻らぬ顔や鉢たたき](其雪影;380)
- B5104 蓮月(れんげつ;法名、大田垣おたがき、名;誠のぶ、伊賀上野城代家老藤堂良聖女)1791-1875 京の歌人、
 生後すぐ知恩院門跡坊官大田垣光古の養女/1797(7歳)頃より丹波亀山藩主に奉公、美貌、
 1807(18歳)頃養子望古と結婚;1815夫没/19養子古肥と再婚/23(文政6)夫と死別;
 剃髪出家;蓮月と称す、養父も出家;西心と称す、養父と共に知恩院真葛庵に住、
 1832養父没;岡崎に住/自活のため歌の指導;美貌のため問題起り中止、
 陶芸で自活の道;自詠歌を彫込み連月焼として評判、京の各地を転々、歌;小沢蘆庵に私淑、
 1849六人部是香門、のち上田秋成・香川景樹門、1865(慶応元)西賀茂神光院に定住、
 村上忠順・橘曙覧・野村望東尼と交流/幕末の志士とも交流、
 歌集「海人の苺藻あまのかるも」著(近藤芳樹が収拾/1870刊)、
 [はらはらと落つる木の葉にまじりきて栗の実ひとり土に声あり](海人の苺藻;秋158)、
 [蓮月の通称]蓮月尼/菩薩尼/陰徳尼
- 蓮月(れんげつ;法名) → 兼氏(かねうじ・源みなもと、廷臣/歌人) C 1 5 6 9
 蓮月(れんげつ・松尾) → 駿淵(しゅんえん・松尾まつお、藩士/歴算家) M 2 1 4 9
 蓮華堂(れんげどう) → 道光(どうこう;法諱・了恵;字、浄土僧) D 3 1 9 9
 蓮華童子(れんげどうじ) → 大心(だいしん;道号・義統;法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1
 蓮花道人(れんげどうじん) → 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻) D 1 7 6 5
 蓮華阿闍梨(れんげあじゃり) → 日持(にちぢ;法諱・本応院、日蓮僧) C 3 3 0 2
- B5146 蓮子(れんこ・吉見よしみ、佐藤良信女)1644-1711 豊前小倉の詩歌人/和漢学に通ず、
 尾張名古屋東照宮祠官吉見恒幸つねゆきと結婚/幸和よしかずの母、
 「つくしおび(筑紫帯)」著(小倉から名古屋までの旅日記)
- 簾子(れんこ・間部/松平) → 詮勝室(あきかつのしつ・間部まなべ、松平康任女、歌) G 1 0 6 0
 蓮悟(れんご・慶光坊) → 兼縁(けんえん;法諱、真宗僧/蓮如男) H 1 8 9 5
- 5176 蓮光(れんこう;法諱、号;諦忍たいにん)?-? 江中期真言律僧;寂黙蓮妙門、
 武蔵足立郡宝蔵寺4世/律師、「秘密儀軌伝授聞書」著
- 蓮光(れんこう;字) → 実範(じつぱん/じちはん;法諱、法相・真言・天台僧) V 2 1 0 4
 蓮光(れんこう;字/号;蓮光房) → 良勝(りょうしょう;法諱・蓮光、真言僧) I 4 9 0 7
 連弘(れんこう・本多/長) → 連弘(つらひろ・長ちよう/本多、藩士/経済改革) E 2 9 4 7
 蓮行(れんこう) → 蓮行(れんぎよう・六郎兵衛入道、絵師)
 蓮光院長祐(れんこういんちようゆう) → 長祐(ちようゆう・蓮光院、僧/歌人) J 2 8 9 9
 聯航軒(れんこうけん・中山) → 宣親(のぶちか・中山、廷臣/歌・連歌) B 3 5 9 5
 蓮蒿廬(れんこうろ) → 長夫(ながお・河津わかう、儒者/歌人) L 3 2 7 5
- B5105 蓮谷(れんこく・板倉いたくら) ? - 1748? 江中期江戸の俳人:1725沾洲「百千万」入、
 1726貞佐「代々蚕」入、1735米仲編「かなあぶら」に肖像画と自筆句入、1748「誹諧温故集」編、
 [蓮谷(;号)の別号]雷風庵/王葩堂おうはどう
- 蓮湖長翁(れんこちようおう) → 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4
- B5106 鍊斎(れんさい・鶴飼うかい、石斎2男)1648-93 京の儒者(家学);父門/山崎闇斎門、
 1678(延宝6)常陸水戸彰考館入;大日本史編纂に参加/1692(元禄5)彰考館総裁、称斎の兄、
 大高坂芝山と交流、「資治通鑑綱目」に訓点(金平点という)、
 「二鶴詩集」「梁丘遲硯銘衍」著、「鍊斎遺稿」、

- [鍊齋(；号)の名/字/通称/法号]名；真昌/信勝、字；子欽、通称；金平、法号；鍊齋真昌居士
- B5107 **廉齋**(れんさい・千手せんじゆ/本姓；三浦、興応男)1737-1819 日向高鍋藩士の家/儒；藩儒内藤有全門/闇齋学を修学、のち江戸の宇井黙齋門、帰藩；1765中小姓；稽古所で経書を講ず、1777(安永6)藩校明倫館創立大綱を作成/78藩校開設；教授、80野別府代官/福島山西代官、1788福島代官、のち藩校に復す、1815病により辞職、「詩書筆記」「四書筆記」「小学講義」、「大学講説」「周易講義」「中庸講説」「近思録講義」「自求録」著、
[廉齋(；号)の名/字/通称/別号]名；興欽おきかね、字；一静/一誠、通称；八太郎/剛之進、別号；広齋
- B5108 **廉齋**(れんさい・添川そえかわ、清右衛門男)1803-58 会津喜多方の農業・染物業の家/染色を修業、学問を志し会津藩士広川庄助の従僕となる/1818(16歳)庄助に随い江戸で儒；古賀穀堂門、のち京の頼山陽門/菅茶山・篠崎小竹門、1841(天保12)上州安中藩主板倉勝明に招聘；客分儒者として江戸藩邸で講義、新島襄の師、「英夷犯清国歌」著/「有所不為齋雜録」編、
[廉齋(；号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名；亀次郎、名；栗、字；仲穎、通称；完平/勘平、別号；有所不為齋ゆうしよふいさい/耶麻山人/盧州/寛夫(；晩年)
- 廉齋(れんさい・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2
連齋(れんさい・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
連齋(れんさい・大塩) → 中齋(ちゆうさい・大塩平八郎、儒者/義挙) G 2 8 0 7
恋西子(れんさいし；号) → 敬光(けいこう；法諱・顕道；字、天台僧) F 1 8 5 7
連作(れんさく・中津川/玉川) → 春庵(しゅんあん・玉川、医者/詩文) 2 1 9 6
連三郎(れんざぶろう・足代) → 弘魚(ひろな・足代あじろ/度会、神職/歌) G 3 7 5 7
連三郎(れんざぶろう・別府) → 勝孝(かつたか・別府べつふ、国学者) V 1 5 6 0
蓮左廬(れんさろ) → 十字(じゅうじ、蓮左廬、俳人) H 2 1 5 5
廉三(れんさん；字) → 日政(にっせい；法諱、浄命、日蓮僧) E 3 3 7 1
- B5109 **連山**(れんざん；道号・交易こうえき；法諱、俗姓；岸)1635-9460 常陸水戸曹洞僧；1650水戸倉泉寺閣翁門、得度/山城宇治興聖寺の万安英種門/師没後；灯印察伝に嗣法、1663常陸蒼竜寺住持、1669(寛文9)徳川光圀の招聘で大雄院を再興、1689下野都賀郡大中寺住持、1692常陸新宿に退隱；没、1672「寒山詩管解」78「永覚和尚禅余内集質実」86「証道歌註」、1690「雪竇頌古註」92「首楞嚴經蠡測」、「信心銘註」「帰藏采逸集」「管見録」外著多数、
[連山交易の号] 帰藏庵/海雲/定巖/不白
- B5110 **連山**(れんざん・堀田ほった) ? - ? 江後期京の絵師；合羽摺木版の浮世絵・絵本作者、1802「小野小町一代記」06「絵本義経八島合戦」10「九想詩絵抄」13「絵本婚礼道しるべ」画、
[連山(；号)の名/通称/別号]名；行長、通称；新兵/新平、別号；里席？
- 聯山(れんざん；法諱) → 祖芳(そほう；道号・聯山；法諱、曹洞僧) K 2 5 6 3
變山(れんざん・三浦) → 梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩) 3 6 0 2
連山(れんざん・野呂) → 元丈(げんじょう・野呂のろ、幕府医官) C 1 8 2 6
- B5111 **廉子**(れんし/やすこ/きよこ・源みなもと、源扶義女) ?-? 一説に源時通女で扶義の養女、源倫子りんしの姪、平安中期の歌人/源則理の妻；離別/藤原彰子(上東門院)の女房/道長の召人(栄花物語)、紫式部の友人、藤原兼隆の妻？、1008敦成親王(後一条天皇)誕生に迎湯を奉仕、1011東宮敦成親王の宣旨、のち従三位、歌；新勅撰1106
[打ちらはらふ友なきころの寝覚めにはつがひし鴛鴦をしぞ夜はにこひしき]、(新勅；雑1106/紫式部への返歌；従三位廉子名、紫式部の贈歌1105；うきねせし水のうへのみ恋しくて鴨のうはげにさえぞおとらぬ、冬に里に出て大納言三位に贈る歌)
[廉子(；名)の通称] 女房名；大納言の君/大納言三位、従三位廉子
- 廉子(れんし・阿野あ) → 新待賢門院(しんたいけんもんいん、後醍醐天皇妃・南朝歌人) 2 2 5 4
蓮子(れんし) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7
蓮子(れんし・吉見) → 蓮子(れんこ・吉見、佐藤良信女/詩歌) K 4 7 3 2
蓮之(れんし) → 珪琳(けいりん・松木まつき、俳人) 1 8 9 4
憐二(れんじ・頼) → 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8
廉治(れんぢ・小川) → 守中(もりなか・小川/藤原、蘭医/雅楽) G 4 4 0 6

- 蓮軸(れんじく・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
連日庵(れんじつあん) → 梅員(うめかず・春道、宮崎氏、狂歌) D 1 2 3 6
蓮日庵(れんじつあん) → 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人) D 3 8 6 0
蓮実坊(れんじつぼう) → 祐朝(ゆうちょう;法諱、伊賀流天台学僧) D 4 6 4 3
蓮実坊(れんじつぼう) → 明快(みょうかい;法諱、叡山天台僧/歌) G 4 1 2 1
蓮実坊(れんじつぼう) → 勝範(しょうはん;法諱、天台座主/歌) B 2 2 2 6
蓮二房(れんじぼう;変名) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9
連舎(れんしゃ・さざなみのや) → 完(またし・波多はた/秦/金原、国学者) J 4 0 4 3
- B5112 **蓮寂**(れんじやく;法諱、俗名;藤原道経?[作者部類]、藤原顕綱男?[和歌色葉]?-? 平安期僧/沙彌、歌;詞花371、
[帰る雁かり西へゆきせばたまづさに思ふことをば書きつけてまし]、
(詞花;雑371/顕輔邸帰る雁を詠む/雁は北帰するがもし西なら浄土に願いを託したい)
道経なら → 道経(みちつね・藤原、家隆、顕綱男) B 4 1 8 8
蓮寂(れんじやく;法名) → 重家(しげいえ・藤原、廷臣/歌人) 2 1 1 0
蓮寂(れんじやく;法名) → 経光(つねみつ・藤原、勘解由小路、廷臣/歌) D 2 9 8 9
蓮寂上人(れんじやくしやうにん) → 禅観(ぜんかん;法諱・九条/藤原、僧) F 2 4 0 7
連积坊(れんじやくぼう;号) → 玄道(げんどう;法諱・連积坊、天台僧/連歌) L 1 8 8 5
- B5113 **恋雀亭四染**(れんじやくていしせん;本名不詳)?-?1693 歌舞伎評判記作者;
四轉「古今四場居色競百人一首」評
- B5114 **連州**(れんしゅう;法諱) ? - 1757 時宗僧;佐渡相川の大願寺11世、
四日市大願寺27世、連歌作者;代々天満宮月次御祈祷連歌の宗匠;連歌振興に尽力、
1755(宝暦5)「水の月」(堀菅岳の序)/56「連州千句集」著、
連秋(れんしゅう・長/長谷部) → 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3
蓮秀(れんしゅう;法諱) → 頼慶(らいけい・下間しもつま、本願寺坊官) 4 8 3 5
蓮舟人(れんしゅうじん) → 鉄翁(てつとう・道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6
連寿観(れんじゆかん) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
- B5102 **連壽尼**(れんじゆに・有村ありむら、名;れん、森元高視女)1808-9588 薩摩鹿児島藩士有村兼善の妻、
歌人;税所敦子さいしよあこ門、尼僧、津崎矩子・太田垣蓮月と交流、
海江田かえだ信義/有村雄助(1835-60)/有村次左衛門(1838-60)らの母
雄助・次左衛門は桜田門外の変で死没、
「雄々しくも君に仕ふるますらをの母てふものは悲しかりけり」(息子2人を悼む歌)
- B5115 **蓮純**(れんじゆん;法諱・三井みつ、鈴木七左衛門愷長男)1796-1881 尾張熱田大瀬古町の魚問屋の生、
1808(13歳)尾張高針の真宗高田派蓮教寺で出家;僧/経史;秦滄浪門/書;尾頭広居門、
1816(21歳)鳴海万福寺の蓮岌門;嗣子/三井姓、海恵門/仏暦算術;諦忍・普門門、
1819万福寺住職/権律師、1827本堂再建/境内に講習場を創設;子弟教育、1854退隠、
のち訓導・権中講義、本山学場助教となる、1864「須弥界一覽」著、法号;浄暁院
連処(れんじよ・滋賀) → 菜橋(らいきやう・滋賀しが、儒者/詩人) 4 8 3 3
- B5116 **れん女**(れんじよ、初世紀逸の妻)?- ? 俳人;紀逸編著に散見
夫 → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
廉女(れんじよ・杉山) → 廉(れん・杉山すぎやま、歌人) 5 1 1 0
- B5117 **蓮勝**(れんしやう;法諱・永慶;字、佐竹義範5男)1282-136281 常陸の浄土僧;鎌倉悟真寺良暁門;出家、
浄土の奥義を究める;1320(元応2)宗脈を相承、帰郷;法然寺を創建、布教に専念、歌を嗜む、
1305(嘉元3)「和歌講式」著、了実・聖岡しやうけいの師
- B5118 **隣昭**(隣照/隣照れんしやう)? - ? 平安前期比叡山天台宗総持院の僧、
877(元慶元)「天台法華宗即身成仏義」/895(寛平7)「無量義経疏」「両経俱无謬」著
蓮生(れんしやう/れんせい・熊谷) → 直実(なおさね・熊谷、武将/浄土僧) 3 2 0 2
蓮生(れんしやう、浄土僧) → 頼綱(よりつな・宇都宮、領主/歌人) 4 7 3 3
蓮性(れんしやう) → 知家(ともいえ・藤原/六条、歌人) 3 1 5 9
蓮昭(れんしやう・証阿弥陀仏) → 長清(ながきよ・勝間田、時宗僧/歌人) D 3 2 5 4
蓮昇(れんしやう;法号) → 貞綱(さだつな・宇都宮/藤原、武将/歌) C 2 0 0 5

- B5119 **廉乘**(れんじょう・後藤ごとう、即乗男)1627-1708 江戸の金工家;後藤家中興の名人、江戸定府、
「廉乗公極帳」「廉乗牡丹目貫折紙」著、
[廉乘(;号)の名/通称/法号]名;光侶、通称;四郎兵衛、法号;光侶院
- B5120 **恋丈**(れんじょう) ? - ? 江中期江戸の俳人、
1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入(;3世湖十を中心)、
[泳ぐ面のおこがましさを慕ひきがる](双猿路談)
- 5149 **連常**(れんじょう;法諱) ? - ? 1821存 江中後期天台僧;慧澄律師門、
「阿毘達磨大毘婆沙論通覽記」1821(文政4)「妙法蓮華經玄義聞書」著
- B5153 **蓮成**(れんじょう;法諱・清水みづ/山岡)1830-1902⁷³ 美濃大垣の生;本名;清水定助、
京の呉服商山岡家に養育;山岡五三郎と称す/和宮御用達鱗形屋の相続人、
和宮下向時江戸へ下り本町に住/帰洛の時に出家;梅翁門、家族・家財を捨て乞食生活、
日蓮僧;京都本隆寺日要(1824-1864)門、山城愛宕郡住、年中木綿の単衣と上衣で過す、
歌人;香川景恒・渡わたり忠秋門、書家、中山慶子よこの師、詠歌し囲碁・茶・俗曲を嗜む、
遺歌集「蓮香歌集」(松浦詮の序に略伝)、
[蓮成の通称/号]通称;定助/五三郎、号;喜楽坊/徳宝/坦蕩斎たんとうさい
- 蓮上(れんじょう;法師) → 成良(なりよし/なりなが・荒木田、成定/神職/歌) I 3 2 3 9
 憐情(れんじょう・本庄) → 重政(しげまさ・本庄/本莊/泉、兵法家/藩士) S 2 1 5 7
 蓮昌院(れんじょういん) → 日慈(にちじ;法諱・円周、日蓮僧) C 3 3 0 4
 蓮成院(れんじょういん) → 日善(にちぜん;法諱・泰芸たいうん、日蓮僧) C 3 3 6 2
 蓮成院(れんじょういん) → 日如(にちにょ;法諱、日蓮僧) D 3 3 0 1
 蓮成院(れんじょういん) → 日尊(にっそん;法諱・文甫、日蓮僧) E 3 3 9 5
 蓮正院(れんじょういん) → 磐代(いわしろ・大江おおえ/岩室/橋/天皇生母) K 1 1 0 3
 蓮生院(れんじょういん) → 信子(のぶこ・東久世ひがしぐぜ/柳沢、歌人) J 3 5 7 9
 蓮浄院(蓮成院れんじょういん) → 秀嶺(しゅうれい;法諱、真宗大谷派学僧) Y 2 1 5 0
 蓮乘院(れんじょういん) → 日東(にっとう;法諱・常然、日蓮僧) F 3 3 3 7
 廉讓亭(れんじょうてい) → 持僚(もちとも・蘆野あしの、儒者/詩文) B 4 4 5 0
 連城亭(れんじょうてい) → 玉晁(ぎょくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
 廉次郎(れんじろう・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3
 連親(れんしん・鷺田) → 光時(みつとき・鷺田わした、金工) E 4 1 0 0
 蓮真(れんしん;法諱) → 流済(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9
 煉心窟(れんしんくつ) → 孤村(こそん・池田いけだ、絵師) N 1 9 0 3
 蓮真斎(れんしんさい;号) → 流済(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9
 蓮心長隠(れんしんちやういん) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8
- B5121 **簾水**(れんすい・武田たけだ) ? - ? 江後期相模中郡の俳人:鳳朗門、
1842-60(天保13-万延元)「俳書拔萃」著、
[簾水(;号)の別号] 清音舎/大滝庵
- 清音舎(せいおんしゃ) → 簾水(れんすい・武田たけだ、俳人) B 5 1 2 1
 漣水散人(れんすいさんじん) → 文軒(ぶんけん・比志島、文献目録) F 3 8 1 1
 練水舎(れんすいしゃ) → 楚茗(そめい、葛飾派俳人) E 2 5 3 9
 練水舎(2世れんすいしゃ) → 錦江(きんかう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 廉介(れんすけ/やすすけ?・神河) → 渭南(いなん・神河かみかわ、医者/弓術) I 1 1 1 2
 簾介(れんすけ・勝) → 賢友(かたとも・勝かつ/源、藩士/歌人) U 1 5 2 7
 連助(れんすけ・的場) → 勝美(かつよし・的場まとは、藩士/国学) O 1 5 0 2
 聯助(れんすけ・藤本) → 千里(ちさと・藤本ふじもと/原、国学/歌) N 2 8 4 1
- B5122 **廉盛**(れんせい・宮原みやはら) ? - ? 多岐の人、北畠家被官、
連歌1452頃教具「初瀬千句」入
- 練清(れんせい・藤原) → 操南(そうなん・藤原、大庄屋/詩歌) I 2 5 6 2
 蓮生(れんせい/れんしょう・熊谷) → 直実(なおざね・熊谷、武将/浄土僧) 3 2 0 2
- B5123 **練石**(れんせき・福田ふくだ、而笑堂じしょうどう2世/石々翁/玄児、鞭石の孫)1702-89⁸⁸ 京俳人:雑俳点者、
「岸柳」「小塩山」、1734鞭石7忌追善「糸柳」知石と共編、52貞徳百回忌追善「双林寺千句」編、

1729隆志「俳諧草結」1句入、

[黒主は七箇と見しやかゞみ山](俳諧草結;224/古今集899大伴黒主の鏡山の歌)

鍊石亭(れんせきてい) → 敬雄(けいゆう・きょうお;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5

廉節(れんせつ・千葉原) → 胤恭(たねやす・千葉原ちばはら、医者/神職) Y 2 6 2 3

B5124 廉泉(れんせん・小谷こたに、伝左衛門盛長男) 1657-1720⁶⁴ 加賀藩士;1664家督継嗣;170石、
儒者;羽黒養潜・室鳩巢門;鳩巢門七才の1、加賀藩儒、

1699前田綱紀女節姫の浅野吉長に嫁ぐ時に1705夫人付;江戸桜田邸に勤務、

1719退隠;金沢に帰る、詩人;「日本詩選」入/「勉善紀聞」著、

[廉泉(;号)の名/字/通称/別号]名;継成/成之、字;勉善、通称;伊兵衛、別号;竹酔

廉泉(れんせん・木村) → 信章(のぶあき・木村きむら、歌人) I 3 5 1 1

鎌川(れんせん・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0

蓮仙(れんせん・戸川) → 安清(やすすみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6

B5125 蓮禪(れんぜん;法諱;積、俗名;藤原資基、通輔[1060-95]男) 1093?-? 廷臣;從五下、1149以前出家、
歌人;1149(久安5)右衛門督成家歌合;右方参加、詩人;「本朝無題詩」59首入/編者説?、
貧困・孤独・旅泊・欣求浄土を詠む、「一句鈔」、1139「三外さんげ往生伝」著、
「打聞集」著(;説話とは別)、叡山法印弁覺の兄

[蓮禪(;法諱)の通称]筑前入道ちくぜんのにゅうどう

蓮窓(れんそう・近江屋) → 冬映(3世とうえい・近江屋、俳人) B 3 1 3 1

廉叟(れんそう・横山) → 広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人) M 3 7 3 3

B5160 廉造(れんぞう・横山よこやま、平右衛門篤興の末子) 1828-84⁵⁷ 備前真島郡美甘村の庄屋の生、医者、
儒;備中松山の山田方谷門/医学;邑久郡牛文村久山楽山の塾入、京の小石家入門、
さらに大坂の華岡家入門、帰郷;医を開業/地域発展に尽力

廉三(れんぞう・千葉原) → 胤恭(たねやす・千葉原ちばはら、医者/神職) Y 2 6 2 3

廉三(れんぞう・行友) → 清恕(きよひろ・行友ゆきとも、神職/国学) V 1 6 6 0

廉叟(れんぞう・横山) → 広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人) M 3 7 3 3

蓮蔵院僧正(れんぞういんのそうじょう) → 賢海(けんかい;法諱、真言僧) I 1 8 0 6

蓮蔵院僧正(れんぞういんのそうじょう) → 実深(じつじん;法諱、真言醍醐寺権僧正) U 2 1 8 2

蓮蔵海(れんぞうかい) → 玄楼(げんろう;道号・奥竜、曹洞僧) N 1 8 1 5

蓮蔵房(れんぞうぼう) → 日目(にちもく;法諱、日蓮僧) D 3 3 2 7

B5126 蓮体(れんたい;字・惟宝いほう;法諱、俗姓;亀田、玄沢良遍禅門2男) 1663-1726 母;覚月妙意信女、
河内錦部郡清水村の真言僧;1674(12歳)叔父浄嚴じょうごん門;出家/1680安祥寺流の印可を受、
秘密伝法阿闍梨位を得る、1696(元禄9)河内延命寺に円通殿建立/97河内高安教興寺住持、
師浄嚴に代り結縁灌頂・講説等庶民教化に尽力;清貧にして栄達求めず説話集編纂し教化、
1702(元禄15)師没;延命寺2世住持;同寺興隆に尽力、1715河内天見村に地藏寺創建;退隠、
1716大坂竹田建立三十三所観音開眼供養の導師、1688「真言開庫集」著、
1693「真言礦石こうじゃく集」1706「観音冥応集」17「毘沙門天王秘宝蔵靈験記」著、
1719「秘密安心往生要集」21「役行者靈験記」25「続礦石集」著、「蓮体和尚日記」外著多数、

[蓮体(;字)の法諱/別字/通称/号]法諱;妙巖/妙教/惟宝蓮体、別字;本浄、
号;無尽蔵/妙適齋、通称;六隠乞士(;一代で六寺移居の意)/林下乞士

蓮台(れんだい・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6

蓮台庵(れんだいあん) → 亮英(りょうえい;法諱・円空;字、天台僧) G 4 9 4 8

蓮岱山房(れんだいさんぼう) → 草雲(そううん・田崎たぎ、藩士/絵師) 2 5 5 9

蓮台寺僧正(れんだいじそうじょう) → 寛空(かんくう;法諱、真言僧) Q 1 5 2 3

連太夫(れんだゆう・的場) → 勝督(かつただ・的場まとは、藩士/歌人) V 1 5 7 9

練丹室(れんたんしつ) → 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌) C 1 7 5 4

B5127 蓮智(れんち;法諱、俗名;宇都宮うつのみや貞泰さだやす、泰宗男) ?-? 1357存 南北期;室町幕臣;遠江守、
室町幕府評定衆、歌人;京都歌壇で活躍、出家;法師/1344「金剛三昧院奉納和歌」出詠、
1345刊[藤葉集]入(宇都宮遠江入道名)、新千載集(1412)入、連歌;菟玖波集3句入、
[鳥のねの二度ふたたびつらき別かなまたねの夢のさむる名残に](新千載;恋1412)、
[時雨つる雲ははれ行く山風に木の葉やいとどふりまさるらん](金剛三昧院歌;34し)

- 蓮致(れんち;法名) → 兼致(かねむね・吉田/ト部、神職:唯一神道) F 1 5 3 3
- 蓮池庵(恋痴庵れんちあん) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1
- 蓮池院(れんちいん) → 幾百(きお・松平まつだいら、歌人/不昧妹) V 1 6 2 5
- 蓮池翁(れんちおう) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6
- 蓮池翁(3世れんちおう) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
- 蓮智坊(れんちぼう) → 長五郎(ちやうごろう・佐渡島さどしま、歌舞伎役者/舞踊) I 2 8 3 3
- B5128 蓮仲(れんちゆう;法諱、佐渡守藤原為信男)?-? 平安中期叡山僧;六角堂別当、明快座主に私淑、絶命しかけたが蘇生し詠歌(袋草紙に逸話入)、勅撰歌人:後拾遺2首;1148/1175、[住吉の待つものしづえに神さびてみどりに見ゆるあけの玉垣](後拾遺;1175) 山口重如と同一? → 重如(重之しげゆき・山口、後拾遺歌人) D 2 1 2 4
- 蓮仲(れんちゆう;法名) → 重如(重之しげゆき・山口/田口/河内、官人/後拾・金葉歌人) D 2 1 2 4
- B5129 蓮長(れんちやう・狩野かのう)?-? 江戸前期絵師、後水尾上皇編「連歌師歌仙」画、1665後西天皇(or後水尾上皇)編「集外歌仙」画
- 廉長(れんちやう) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8
- 蓮長(れんちやう) → 日蓮(にちれん・是聖房、日蓮宗開祖) 3 3 0 4
- 廉直(れんちやく・土屋) → 廉直(ただなお・土屋つちや、幕臣/記録) Q 2 6 2 3
- B5130 蓮亭(れんてい・岡井おかい、嵯州2男)1751-1826 儒者;家学を儒/1798水戸彰考館入;侍読教授兼任、「救民例」「経筵献議」「制産論」1806「仏法管闡」19「周官凶説」著、[蓮亭(;号)の名/字/通称]名;璵よ/多加良、字;子璠はん、通称;富五郎
- B5147 恋稻(れんとう・深川ふかがわ、五窓庵)?-? 江戸の俳人、1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入、[朧月おさなきときの影法師](双猿路談)
- B5138 恋稻(れんとう・深川ふかがわ、湾窓こうそう)?-? 江戸新和泉町の俳人;五窓庵恋稻門/其角座点者、1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」点句入
- B5101 蓮道(れんどう;法諱/法師)?-? 僧、歌人:1384成立「新後拾遺集」1首入(1345)、[うき世より住みうくとても身をすてて後は出づべき山の奥かな](新後拾;雑1345)
- 蓮道(れんどう;字) → 宝篋(ほうきやう;法諱、真言僧) 3 9 4 3
- 恋稻庵(れんとうあん) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4
- 蓮阿(れんあ・法師) → 蓮阿(れんあ/れんな;法諱、真宗大谷派僧/歌) B 5 1 4 8
- 蓮位(れんに;法諱) → 蓮位(れんい/れんに;法諱、下間しつまつ宗重、真宗僧) 5 1 8 9
- 5176 簾尼(れんに) ?-? 伊賀上野女流俳人、1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、[たぐりよせん唐糸からいとならば糸桜](貝おほひ;七番左/判詞によると長太郎節の歌詞)
- 蓮入房(れんにゅうぼう) → 湛智(たんち;法諱、天台僧/声明理論) I 2 6 9 7
- 蓮如(れんに;法名) → 雅定(まささだ・源、廷臣/故実/歌人) C 4 0 5 2
- 蓮如(れんに;号) → 兼寿(けんじゅ;法諱・蓮如、本願寺中興) 1 8 1 6
- B5162 蓮忍(れんにん;法諱) ?-? 鎌倉南北期;僧、歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、[五十鈴河ふりさけみれば神代にも秋のもなかの月はかはらず](朝棟亭歌会;109)、[世を秋の風吹きすさむ真葛原身をうらみにや露こぼるらん](同;112)
- 廉仁王(れんにんおう・邦省親王男) → 廉仁王(すみひとおう、歌人) D 2 3 4 5
- 蓮念(れんねん;法諱) → 仁寛(にんかん;法諱、真言僧) G 3 3 2 5
- 連之助(れんのすけ・伊東) → 遜斎(そんさい・伊東いとう、書家) F 2 5 4 2
- 廉之助(れんのすけ・松林) → 飯山(はんざん・松林まつばやし、儒者) H 3 6 8 4
- 廉之助(れんのすけ・鈴木) → 松嵐(しょうらん・鈴木、詩人) L 2 2 8 9
- B5131 蓮坡(れんぱ・今村いまむら)1781- 1859 備後福山藩士今村勝辰の養子、福山藩士;郡奉行、藩校弘道館の読書掛、詩人:菅茶山・門田朴斎・頼山陽と交流、「藕風居詩稿」「藕風居百絶」「蓮坡詩稿」著、[蓮坡(;号)の名/字/通称/別号]名;勝寛/寛/完、字;士猛/綽夫、通称;五兵衛、別号;退翁/藕風居
- 蓮坡堂(れんぱどう) → 成之(せい・小幡、藩士/俳人) I 2 4 5 4

- B5132 **連敏**(れんびん;法諱) ? - ? 平安中期長徳995-99頃の僧、紀伊・筑紫へ行脚、
 源頼国と交流、歌人:後拾遺(2首495/1131)、
 [筑紫船まだともづなも解かなくにさし出づるものは涙なりけり](後拾;別495、
 筑紫から京に上る時人々別れを惜しむときに詠む/筑紫船は京と筑紫を往復する船、
 船の出づと涙の出づを掛る)
- 廉夫(れんぶ・仲島/角田)→ 九華(きゅうか・角田つのだ、藩士/儒者) B 1 6 9 3
 廉夫(れんぶ・高橋/鮎沢)→ 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士/尊王派) C 1 7 9 0
 廉夫(れんぶ・多紀) → 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9
 廉夫(れんぶ・小林) → 勝清(かつきよ・小林こばやし、大庄屋/歌人) U 1 5 6 2
 斂夫(れんぶ・藤原) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
 練武堂(れんぶどう) → 兵原(へいげん・平山ひらやま、兵学/武芸者) 2 7 2 5
 練武堂(れんぶどう) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
 廉平(れんへい・佐分利) → 政一(まさかず・佐分利/佐分さぶり、家老) B 4 0 8 2
 廉平(れんへい・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1
 廉平(れんへい・大岡) → 栗斎(りつさい・大岡おおおか、儒者) B 4 9 9 5
 廉平(れんへい・津田) → 重治(しげはる・津田つだ、藩士/国学) Z 2 1 4 4
 練兵舎主人(れんべいしやしゅじん)→ 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7
 鍊兵堂(れんべいどう) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
 蓮浦(れんぼ・草鹿) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩) K 2 6 6 2
- B5133 **廉峯**(れんぼう;法諱・号;良任房、俗姓;赤阪) 1719-7254 大和真言僧:高野山普門院の理峯門;受戒、
 声明音律に達す/高善院に住:のち師理峯の跡を継嗣、如意輪寺弘栄・東南院寛光の師、
 「声明聞書」/1765「理趣経々頭私譜」68「明神講式」著
- 蓮峰(れんぼう) → 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5
 聯芳軒(れんぼうげん) → 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6
 璉峰大器(れんぼうのたいき) → 豊綱(とよつな・真野まの、尾張神官/俳) R 3 1 3 0
 鎌満(れんまん・黒川/島川)→ 鎌満(かままる・島川、藩士/国学/歌人) F 1 5 8 5
 蓮目(れんもく;法名) → 兼氏(かねうじ・源みなもと、廷臣/歌人) C 1 5 6 9
 連也斎(れんやさい・柳生) → 巖包(いしかね・柳生、藩士/劍客) J 3 1 4 6
 蓮愉(れんゆ・蓮瑜れんゆ) → 景綱(かげつな・宇都宮、歌人) 1 5 6 7
 連葉(れんよう) → 成之(せいし・小幡、藩士/俳人) I 2 4 5 4
 練理(れんり・柳) → 檜悦(ならよし・柳やなぎ、藩士/測量術) G 3 2 9
- B5134 **蓮了**(れんりょう;法諱) ? - ? 江後期京の北野天満宮の社僧、
 1864(元治元)刊「天神記図会」著
- B5135 **漣々**(れんれん;号・大久保おおくぼ) 1798-185861 江後期江戸の俳人:雪明門/のち炉扇門、
 清水徳川家に出仕、2世漣々の父、1833「俳諧白雄夜話」編/34「季寄便覧」52「追福句合」著、
 1853「俳家道乃栞」編/58「伊勢木綿」34「季寄便覧」著、「漣々発句集」「俳諧花牆庵廼塵」著、
 [初世漣々(;号)の名/通称/別号]名;忠善、通称;伊三郎、
 別号;花牆はなかし漣々/花牆/花牆家/去来庵
- 漣々(2世れんれん・大久保)→ 忠保(ちゅうたかやす・大久保おおくぼ、幕臣/歌) U 2 6 5 6
 漣々舎(れんれんしゃ) → 宝馬(ほうば・吉成/小菅、蒼狐門俳人) C 3 9 4 7
 輦路(れんろ・大道寺) → 玄蕃(げんぱ・大道寺だいでうじ、藩士/俳人) M 1 8 1 3
 鎌六(れんろく・葛原) → 秀藤(ひでふじ・葛原くずはら、神職/国史) D 3 7 7 7